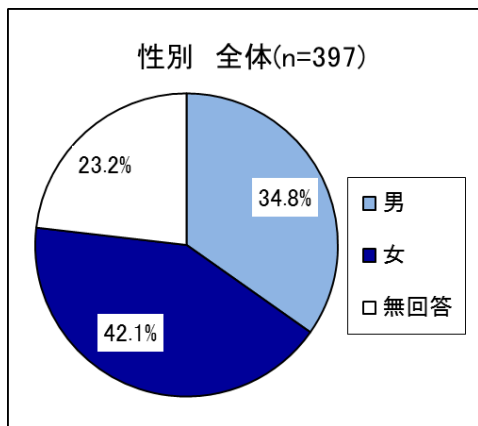


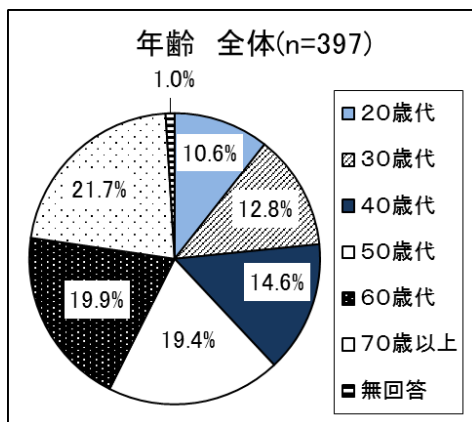
II 市民 調査結果

■回答者の属性

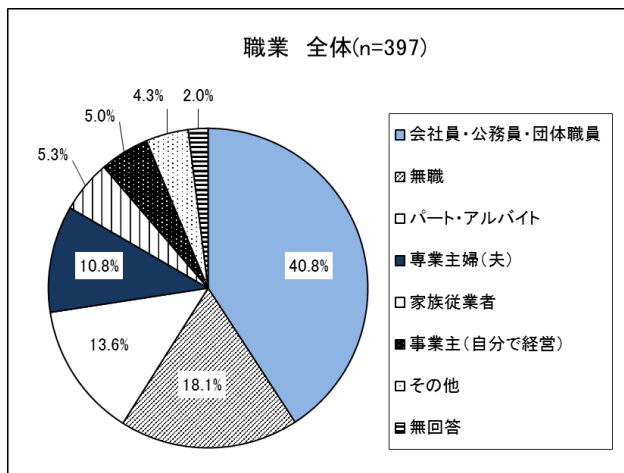
① 性別



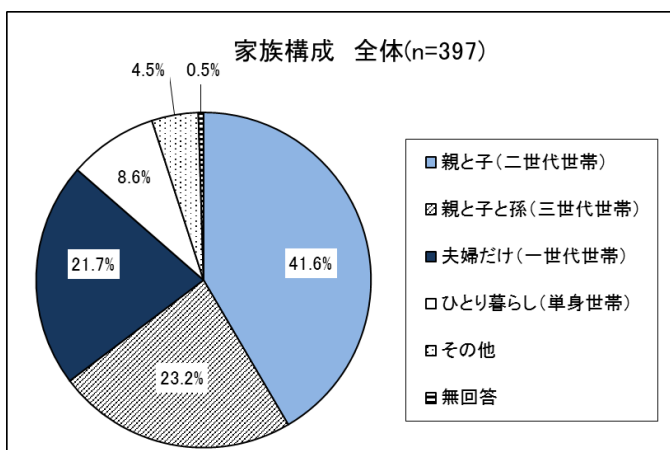
② 年齢



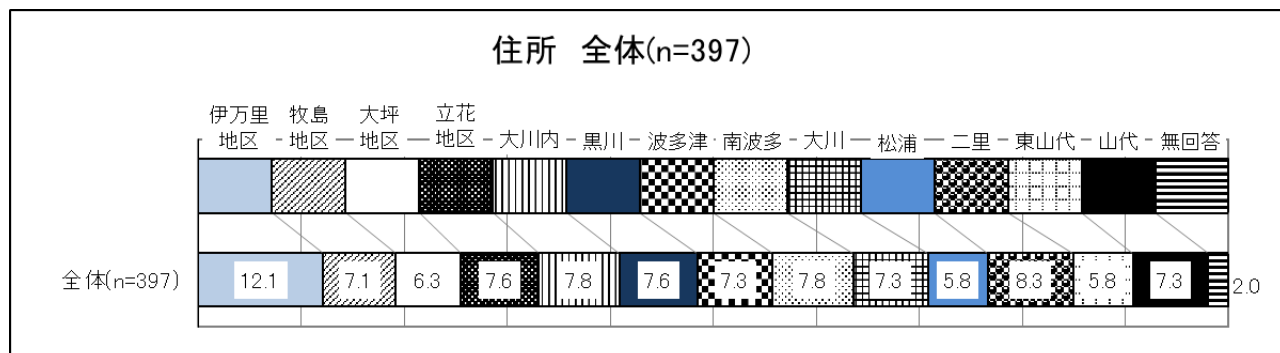
③ 職業



④ 家族構成



⑤ 住所



II 一般市民 調査結果

1. 食事について

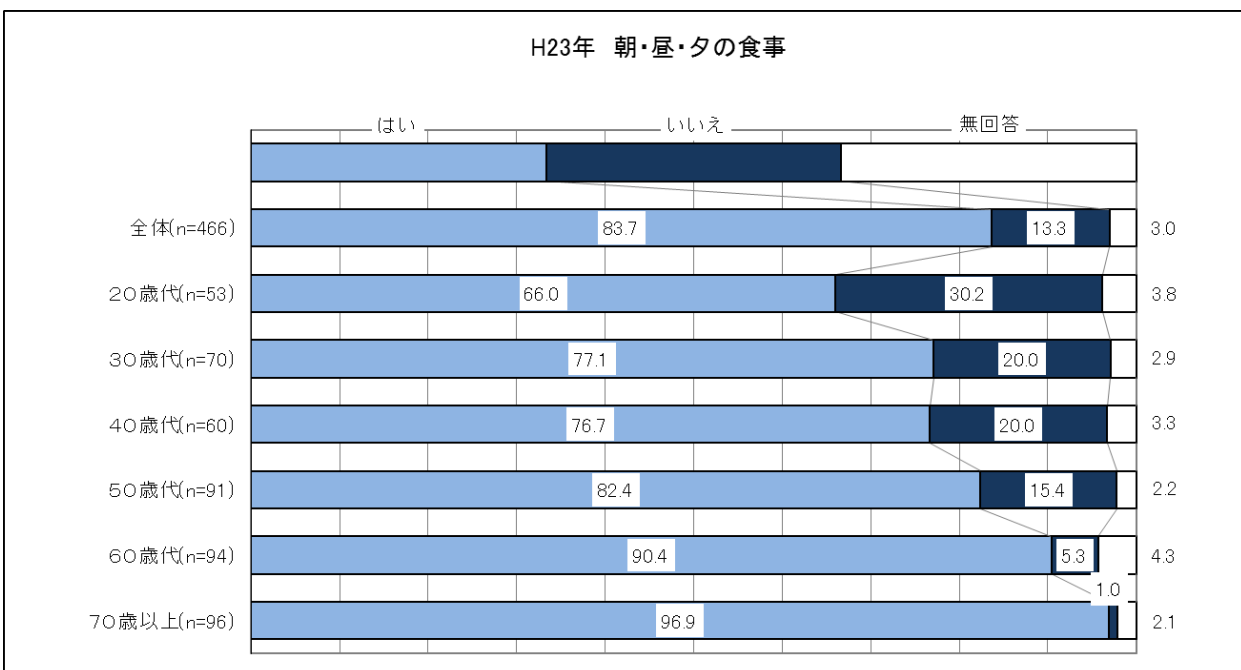
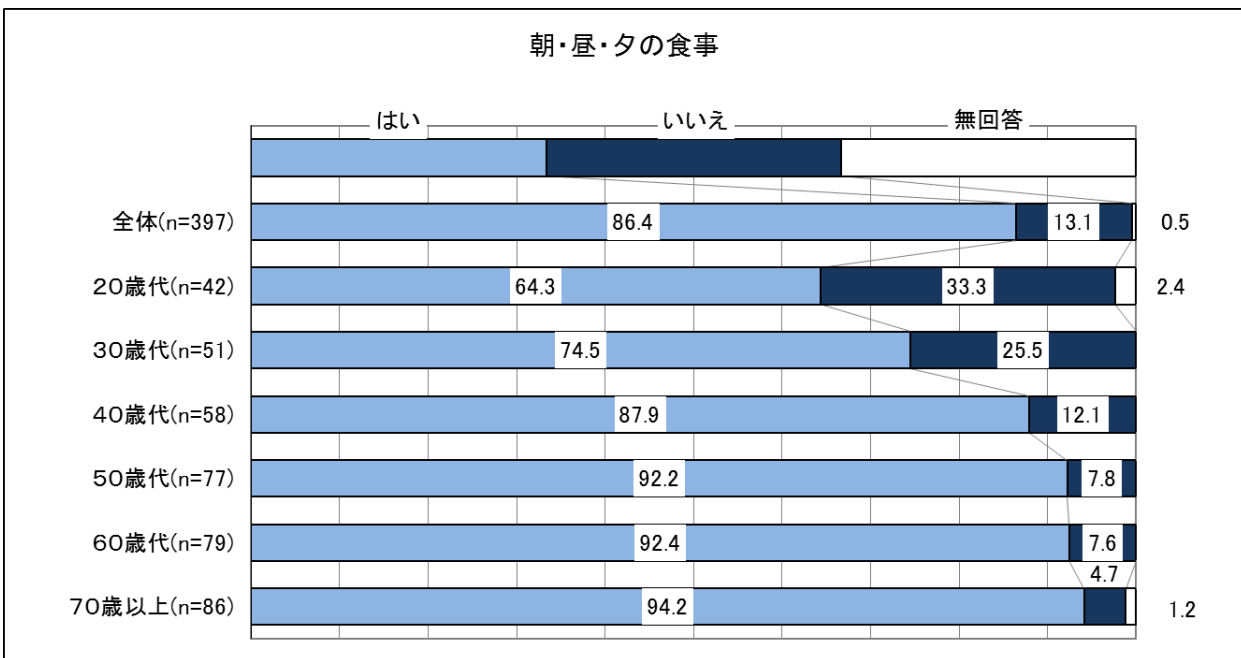
問1 毎日の食事は朝・昼・夕の3回とっていますか。 (○は1つだけ)

- ◆ 「3食とっていない」人は全体の13.1%で、前回とほぼ同じ
- ◆ 「3食とっていない」人は、20歳代が最も多い

全体では、「はい」と答えた人は86.4%、「いいえ」と答えた人は13.1%となっています。平成23年調査（はい83.7%・いいえ13.3%）に比べると、摂食率は若干上がっています。

性別では、「はい」（男性81.2%・女性88.6%）、「いいえ」（男性18.8%・女性10.2%）であり、3食の摂食率は男性の方が低くなっています。

年代別に見ると、「3食とっていない」のは、20歳代が一番高く3分の1を占め、30歳代が約4分の1となっています。



II 一般市民 調査結果

問2 ふだん朝食を食べますか。

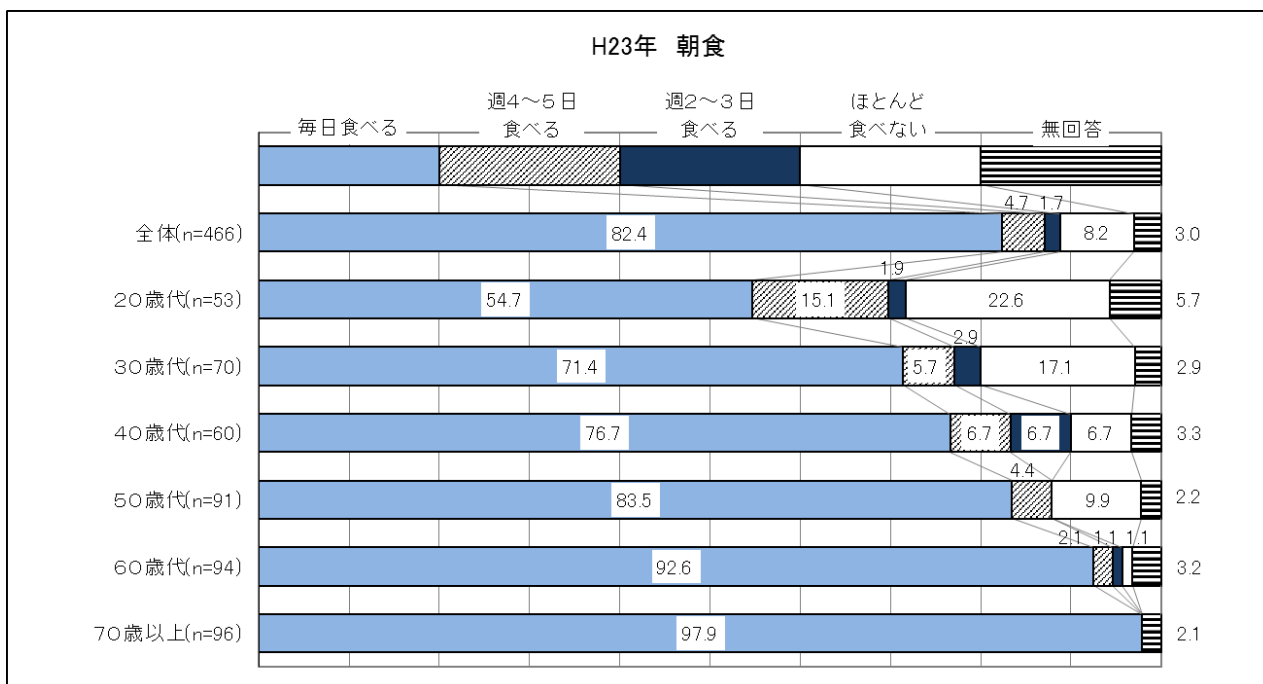
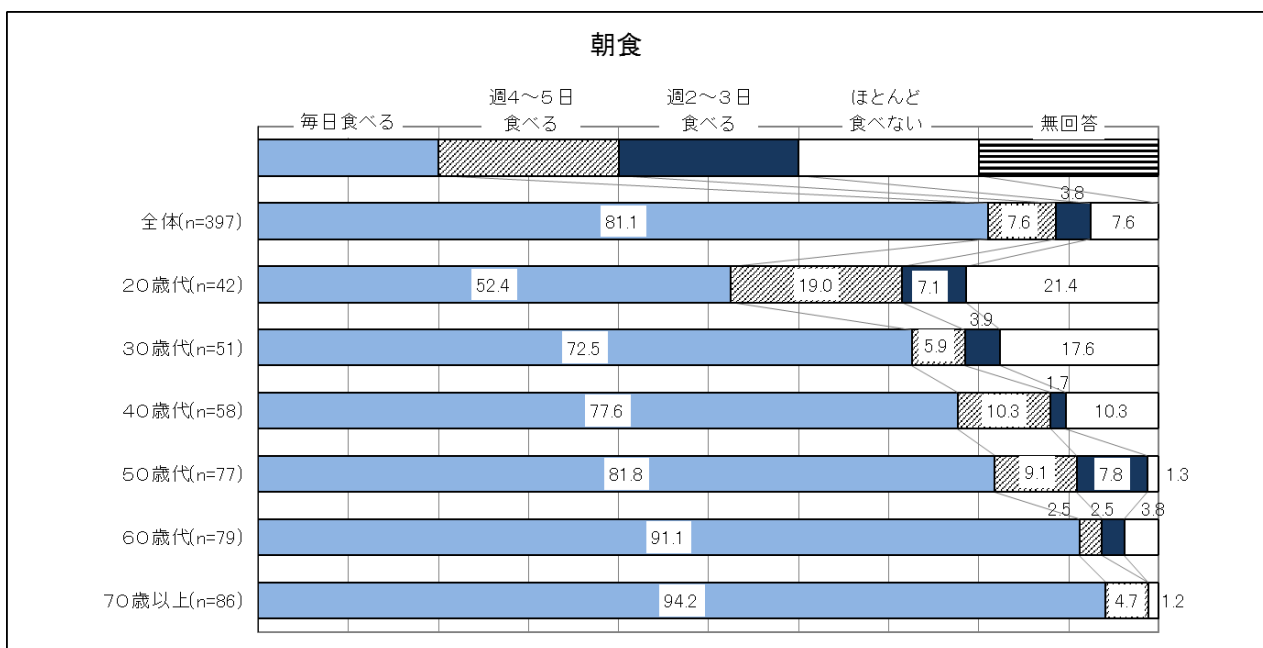
(○は1つだけ)

- ◆ ほとんど食べない人は7.6%で、前回より減っている
- ◆ 毎日食べる人の割合は、年代が若くなるほど低くなっている

全体では、「毎日食べる」(81.1%)、「週4～5日食べる」(7.6%)、「週2～3日食べる」(3.8%)、「ほとんど食べない」(7.6%)となっています。

「ほとんど食べない」を性別で見ると、男性(13.8%)が女性(4.2%)の3倍以上となっており、年代では20歳代が最も高く、2割強となっています。

また、平成23年調査に比べると、「毎日食べる」は1.3%低く、毎日朝食を食べない人が若干増えています。



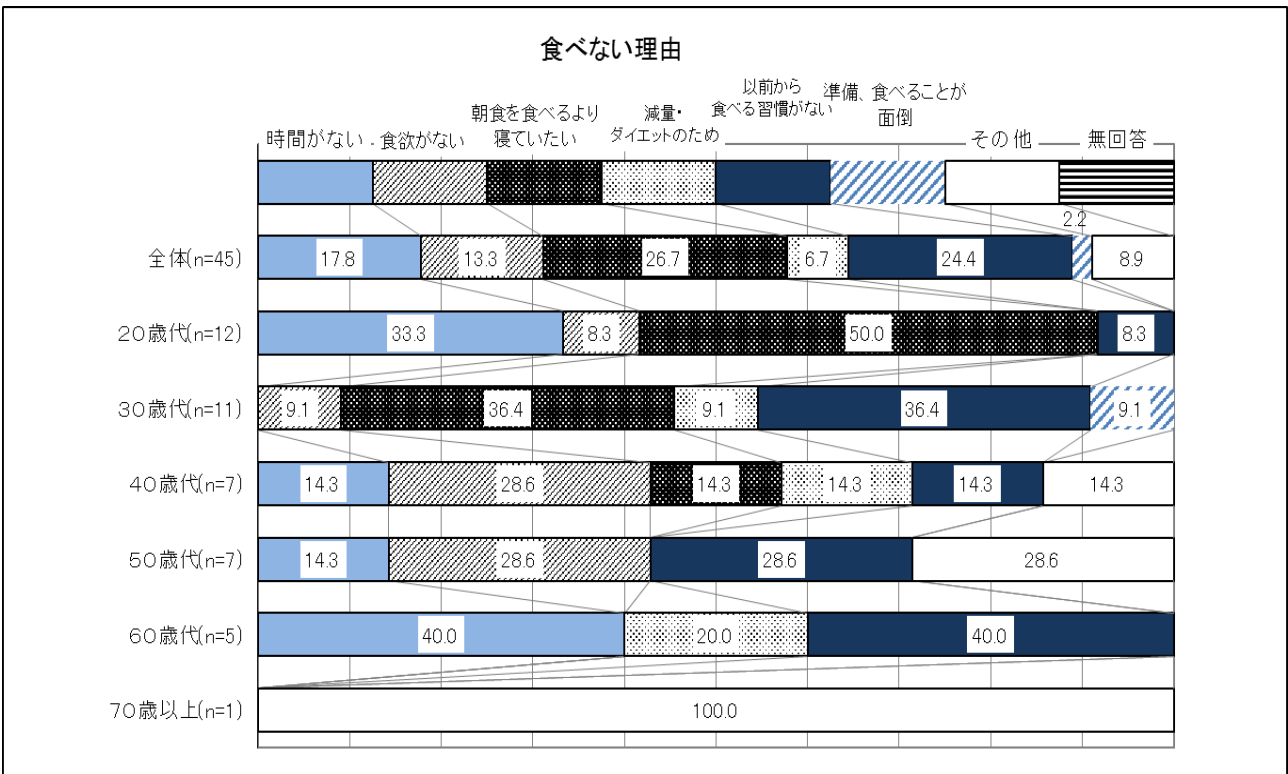
II 一般市民 調査結果

問3 問2で「3. 週に2~3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方にお聞きします。朝食を食べない理由は何ですか。(〇は1つだけ)

◆ 理由は、「朝食を食べるより寝ていたい」と「以前から習慣がない」の合計が全体の半数を占めている

全体では、「朝食を食べるより寝ていたい」(26.7%)が最も多く、「以前から食べる習慣がない」(24.4%)、「時間がない」(17.8%)と続いています。

年代別で見ると、朝食を食べない理由は年代によって異なっていますが、20歳代では「朝食を食べるより寝ていたい」という理由が半数を占めていることから、朝食を食べるためには睡眠時間など生活習慣の改善が必要だと考えられます。



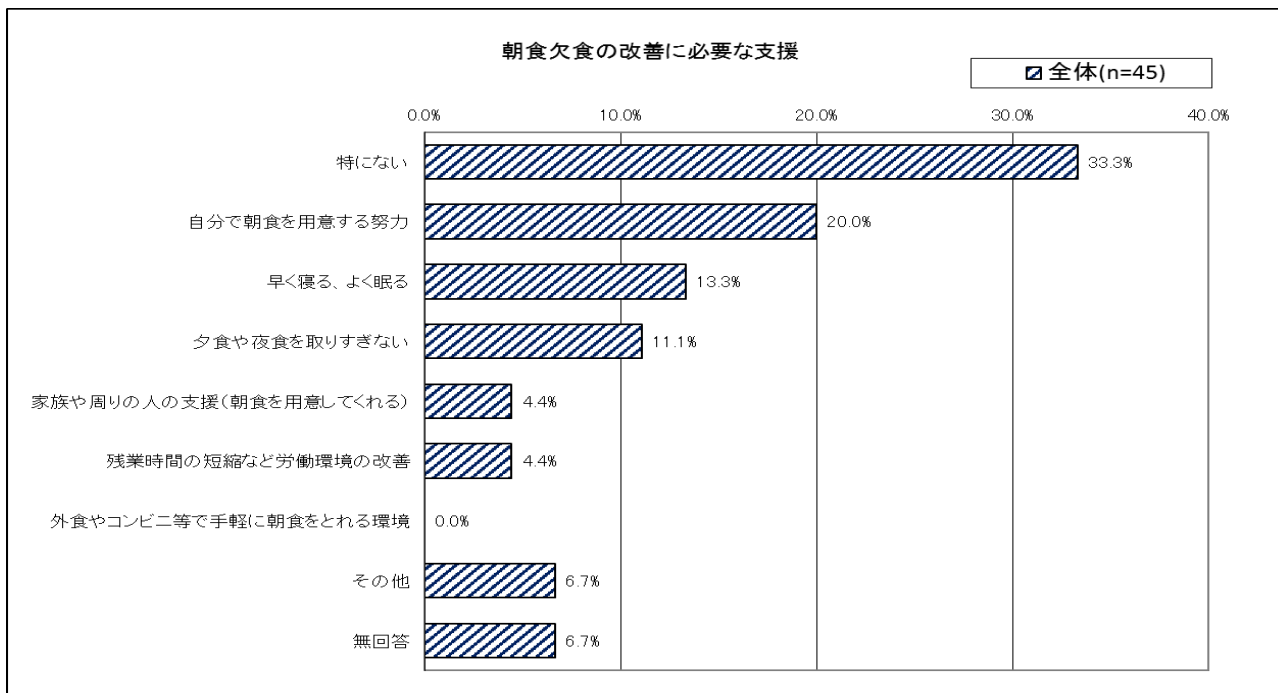
問4 問2で「3. 週に2~3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方にお聞きします。朝食欠食の改善に必要な支援は何ですか。(〇は1つだけ)

◆ 全体の3分の1は「特になし」と答えている  
 ◆ 全体の2割は「自分で朝食を用意する努力」が必要だと考えている。

全体では、「特になし」(33.3%)が最も多く、「自分で朝食を用意する努力」(20.0%)と続いています。

「早く寝る、よく眠る」(13.3%)、「夕食や夜食を取りすぎない」(11.1%)という回答もあることから、生活習慣や食習慣の改善が必要だと自覚している方がおられます。

## II 一般市民 調査結果



問5 家族そろって食事をすることはどのくらいありますか。

(1日1回でも家族そろって食事をすれば1日とする。また、単身者の方が、友達や地域の方などと一緒に食事をする場合を含むこととする。)

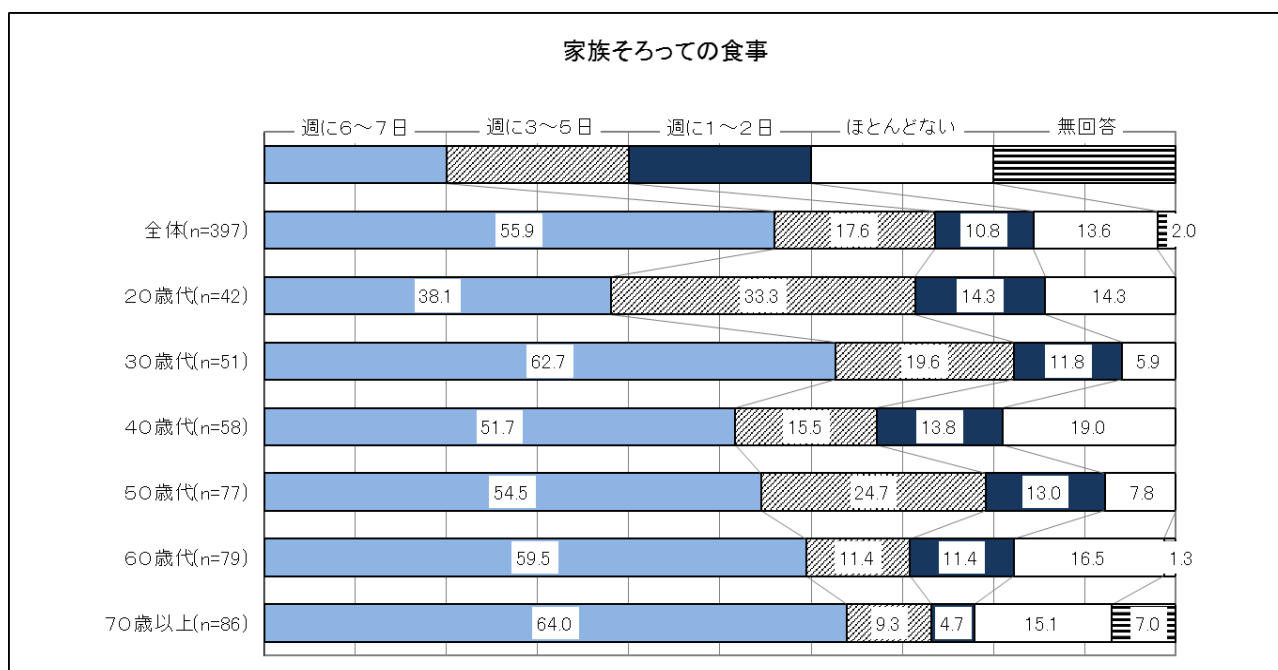
(○は1つだけ)

◆ 「週に3日以上一緒に食事をする」人は7割を超えており、前回より増えている

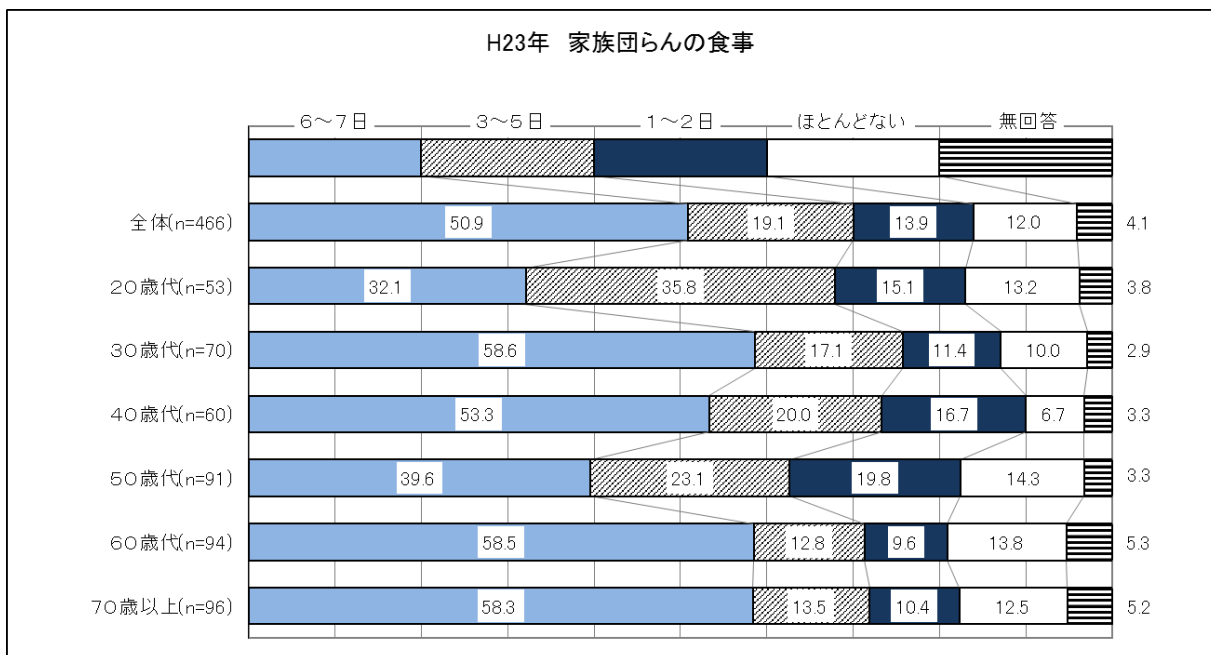
全体では「週に6～7日」(55.9%)が最も多く、「週に3～5日」(17.6%)、「ほとんどない」(13.6%)、「週に1～2日」(10.8%)と続いています。

「週に3日以上一緒に食事をする」人は、平成23年調査より3.5%増えています。

「週に6～7日」を年代別で見ると、30歳代が6割強と最も多く、20歳代が4割弱と最も少なくなっています。



## II 一般市民 調査結果



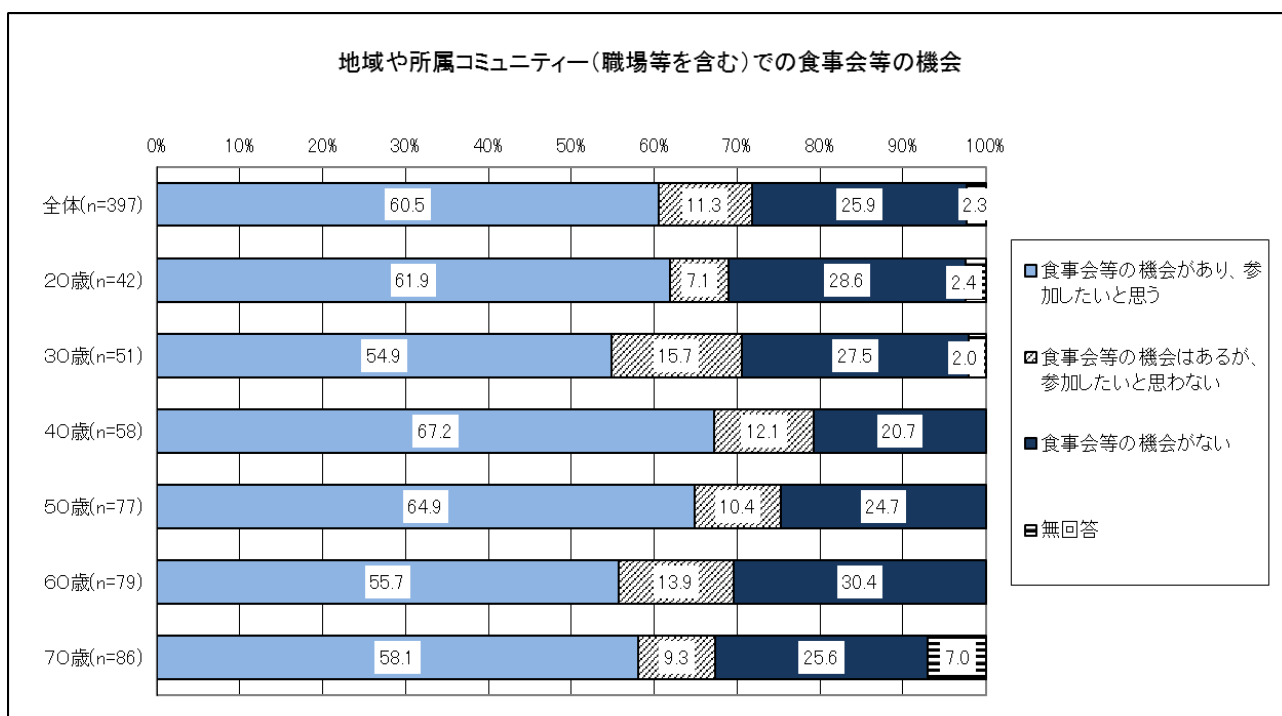
問6 地域や所属コミュニティ（職場等を含む）での食事会等の機会はありますか。また、そのような機会があれば参加したいと思いますか。

（○は1つだけ）

◆ 全体の6割以上は、地域や所属コミュニティに食事会等の機会があれば参加したいと思っている

全体では「食事会等の機会があり、参加したいと思う」（60.5%）が最も多く、「食事会等の機会はあるが、参加したいと思わない」（11.3%）が最も少ない。

年代別で見ても、地域や所属コミュニティの食事会等に参加したいと思っている人が圧倒的に多いことは、すべての年代において共通している。



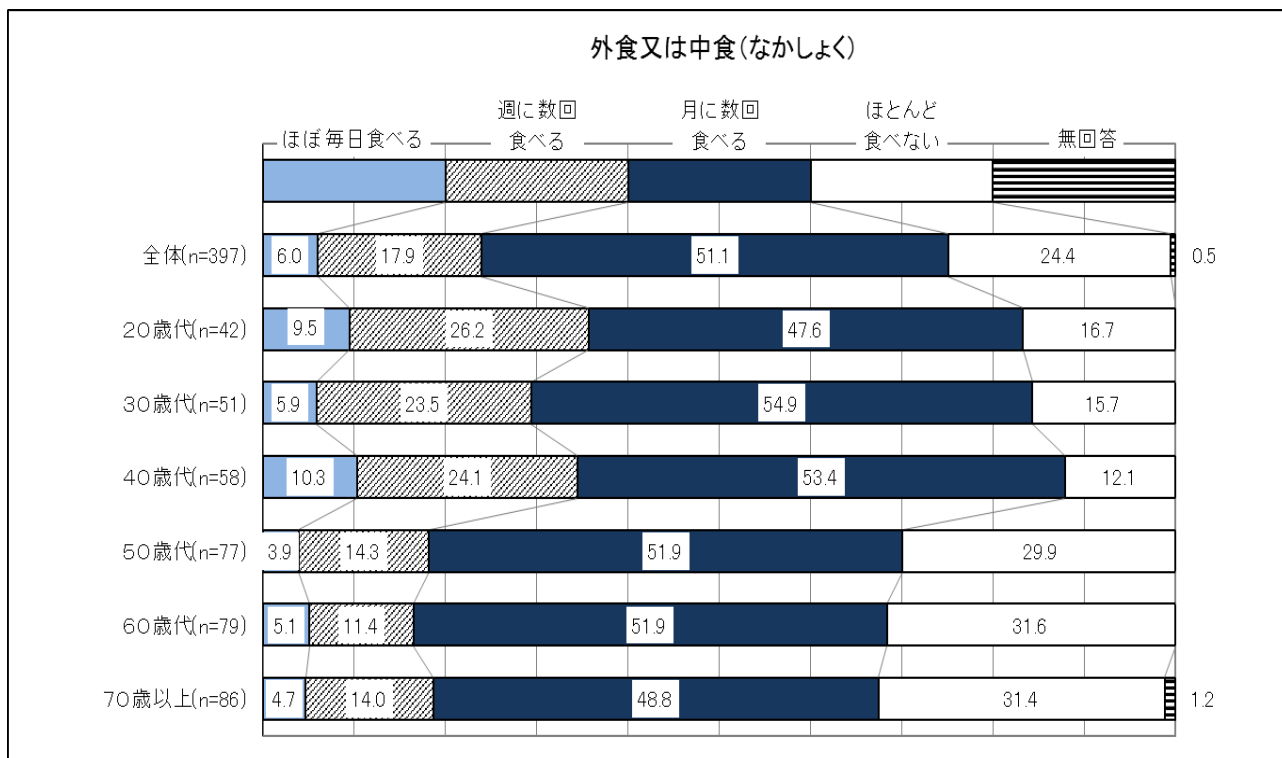
## II 一般市民 調査結果

問7 外食または中食（なかしょく）をどのくらい食べますか。（○は1つだけ）

- ◆ 「ほぼ毎日食べる」人は、20歳代と40歳代が約1割
- ◆ すべての年代において、約半数は「月に数回食べる」

全体では、「ほぼ毎日食べる」(6.0%)、「週に数回食べる」(17.9%)で、約4分の1の人がよく外食または中食を食べていることがわかります。また、約4分の1が「ほとんど食べない」(24.4%)と答えています。

年代別で見ると、「ほぼ毎日食べる」は40歳代(10.3%)、「週に数回食べる」は20歳代(26.2%)、「月に数回食べる」は30歳代(54.9%)、「ほとんど食べない」は60歳代(31.6%)が最も多くなっています。



## 2. 食生活について

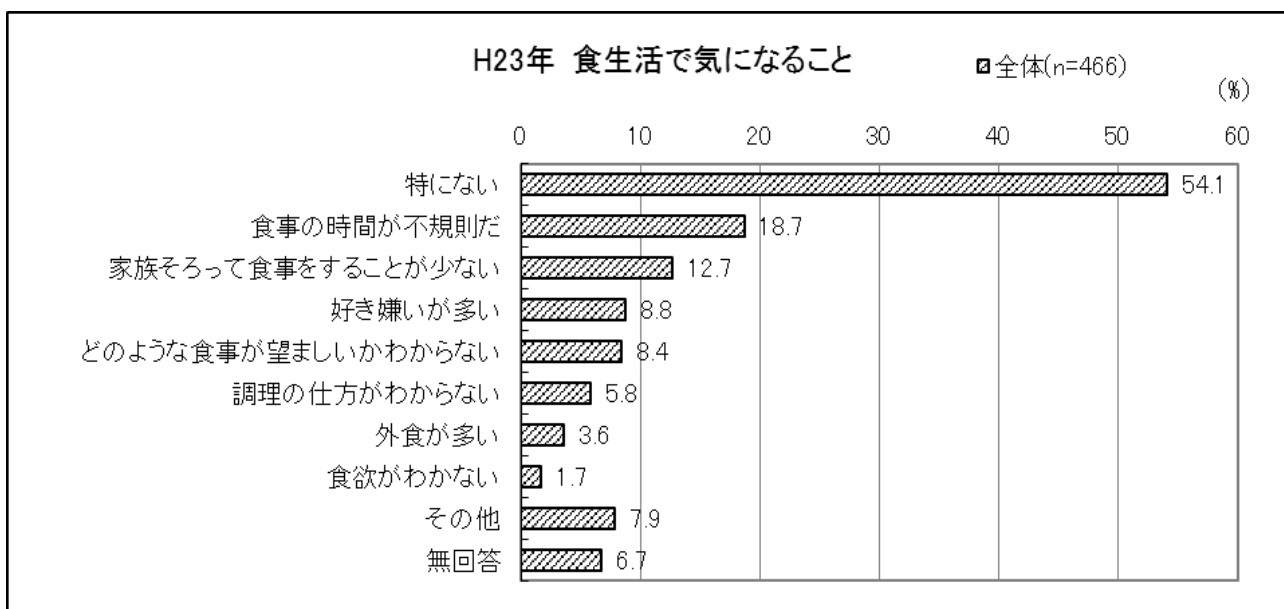
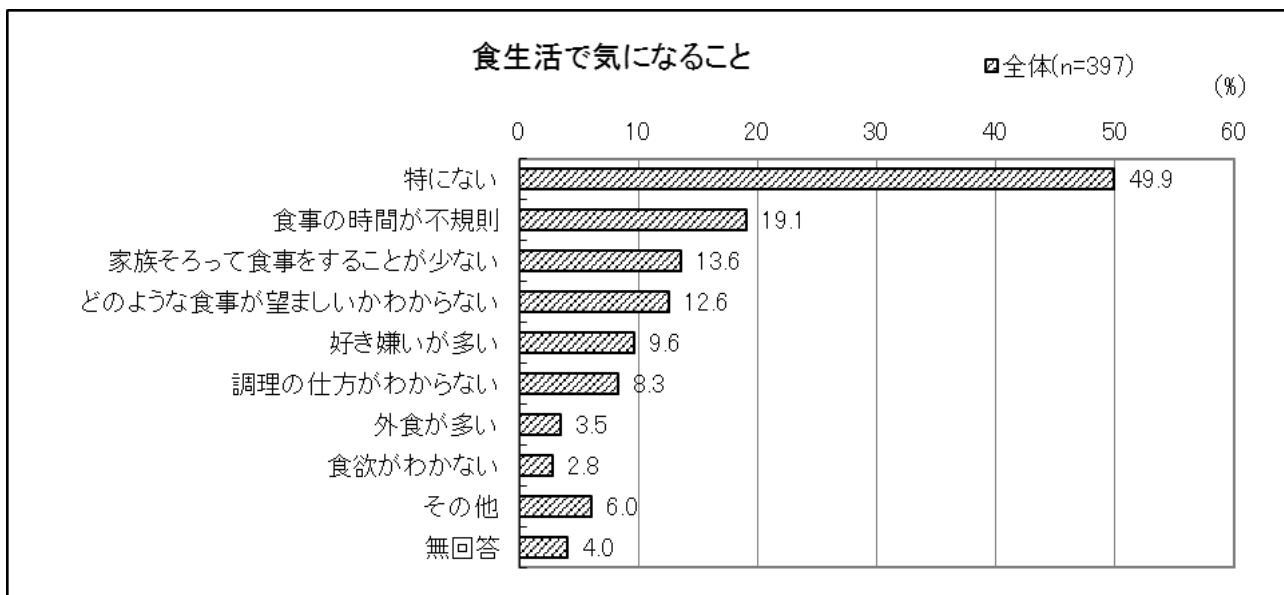
問8 食生活で気になることはどのようなことですか。（○は3つまで）

- ◆ 全体の1割強は「どのような食事が望ましいかわからない」と答えている

「特にない」(49.9%)が圧倒的に多く、「食事の時間が不規則」(19.1%)、「家族そろって食事をするのが少ない」(13.6%)と続いています。

平成23年調査と比較すると、「どのような食事が望ましいかわからない」が4.2%増えていることから、主食・主菜・副菜をバランスよく食べるように啓発していく必要があります。

II 一般市民 調査結果



問9 日ごろ、食の安全に関して不安に思うことは何ですか。（〇は3つまで）

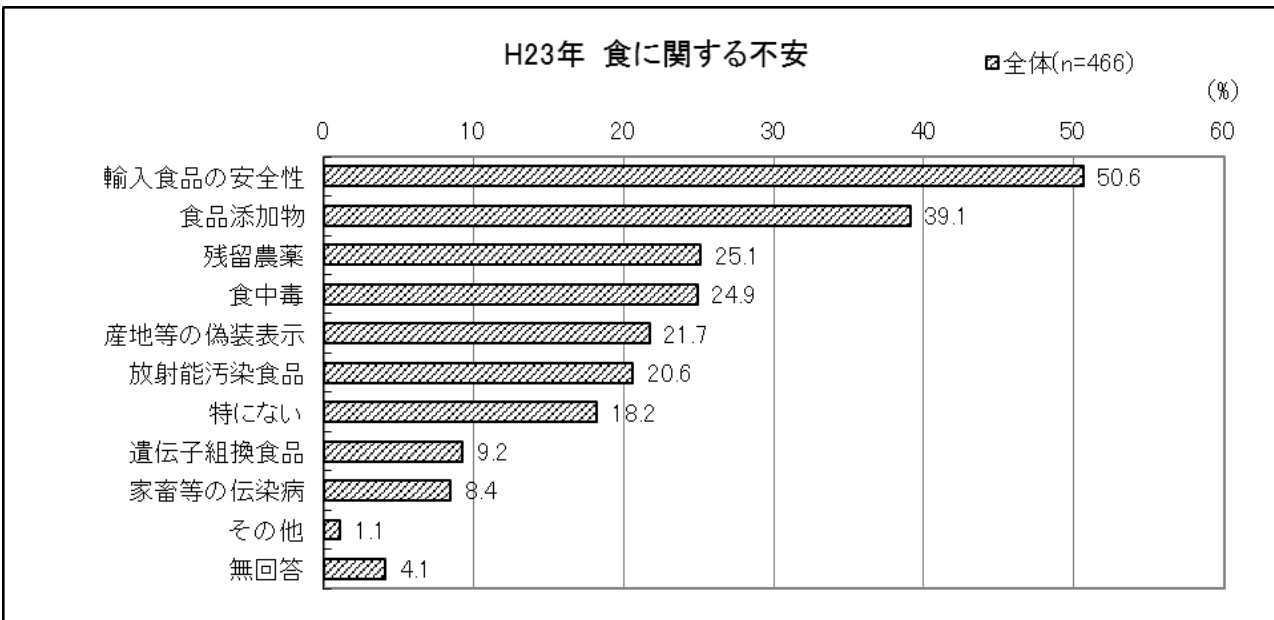
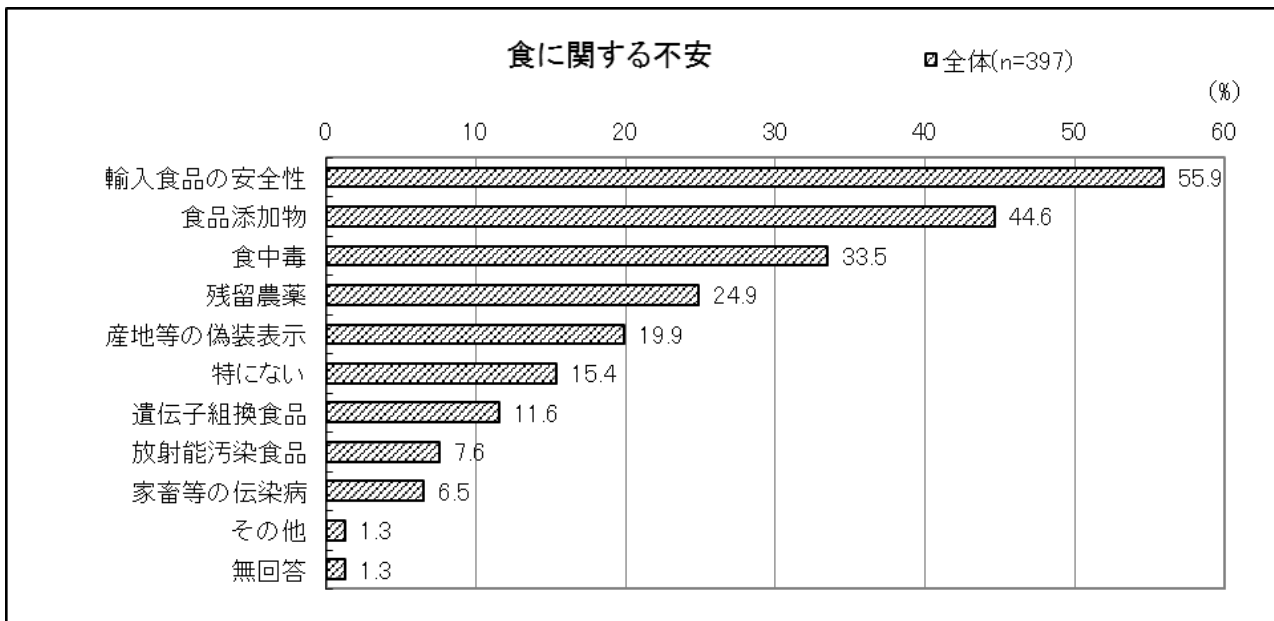
◆ 前回から、「食中毒」が最も増え8.6%、「放射能汚染食品」が最も減り△13%

全体では、「輸入食品の安全性」(55.9%)が最も高く、「食品添加物」(44.6%)、「食中毒」(33.5%)、「残留農薬」(24.9%)、「産地等の偽装表示」(19.9%)と続いています。

平成23年調査と比較すると、不安に思うことの上位は同様の項目が上がっているものの、「輸入食品の安全性」、「食品添加物」、「食中毒」などがそれぞれ高くなっており、「放射能汚染食品」「産地等の偽装表示」「家畜等の伝染病」が低くなっています。



II 一般市民 調査結果



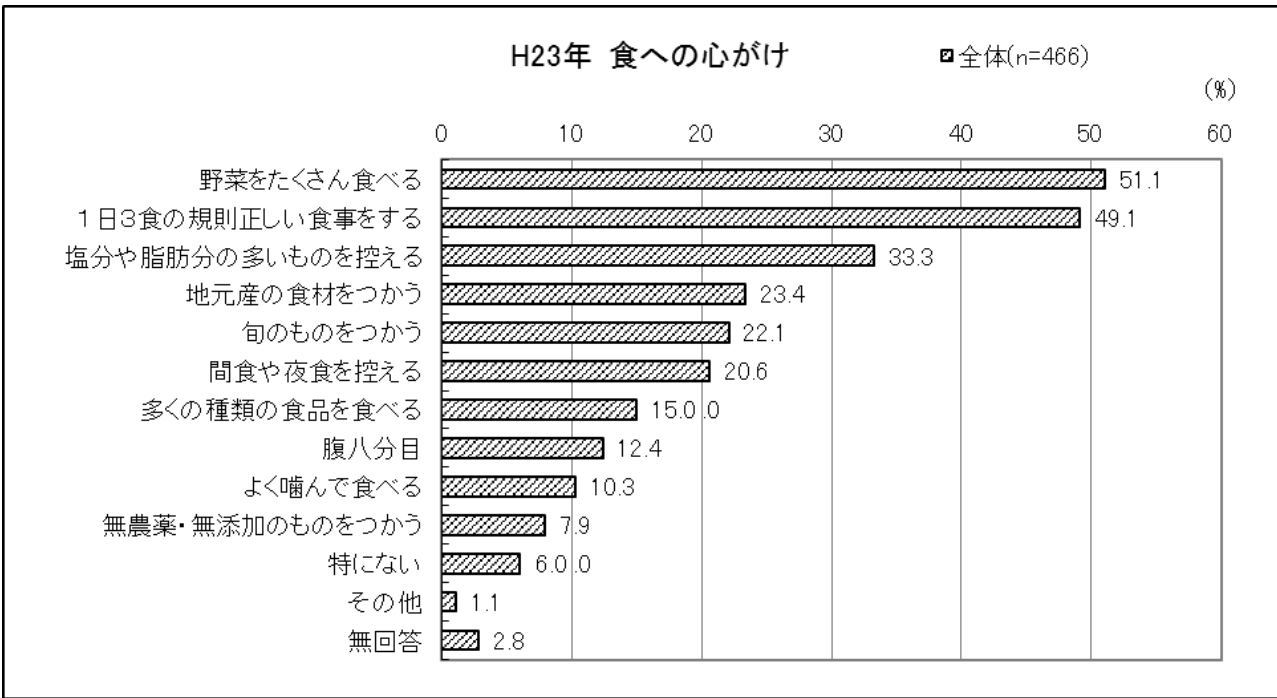
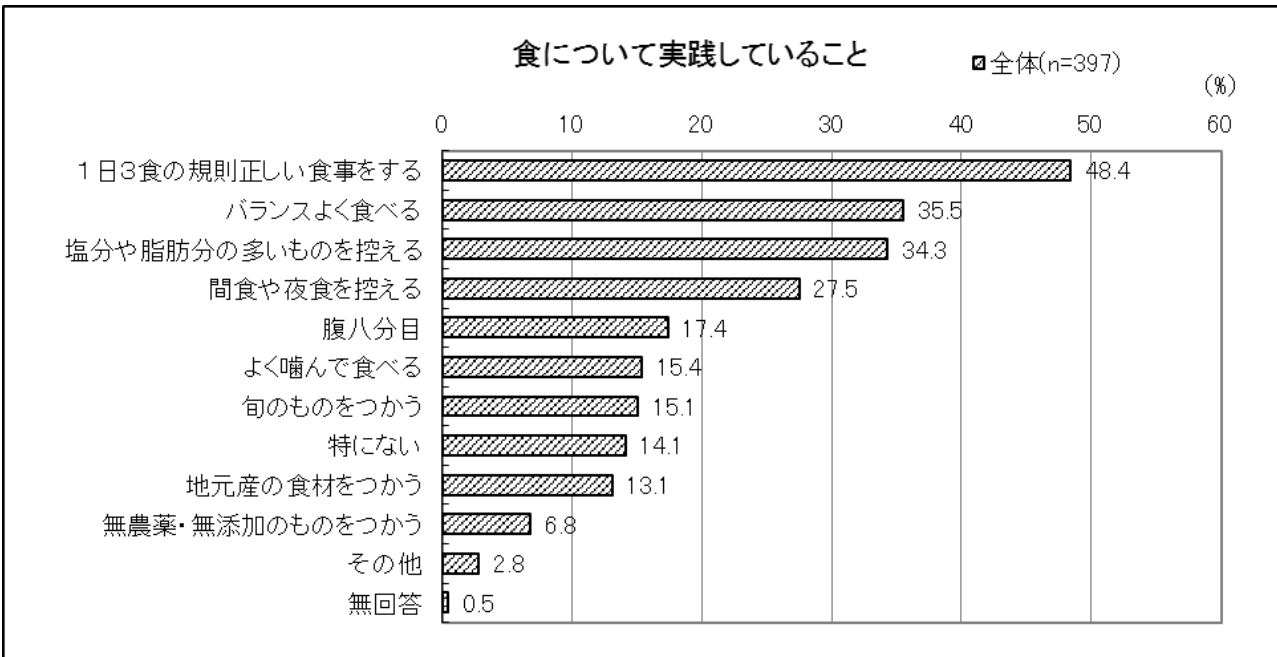
問 10 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから食について実践していることは何ですか。 (〇は3つまで)

◆ 全体の約半数の方が、「1日3食の規則正しい食事をする」ことをふだんから実践している

全体では、「1日3食の規則正しい食事をする」(48.4%)が最も高く、「バランスよく食べる」(35.5%)「塩分や脂肪分の多いものを控える」(34.3%)、「間食や夜食を控える」(27.5%)と続いています。

性別でみると、「腹八分目」、「間食や夜食を控える」は男性が高く、「旬のものをつかう」「地元産の食材をつかう」「バランスよく食べる」は女性が高くなっています。

II 一般市民 調査結果



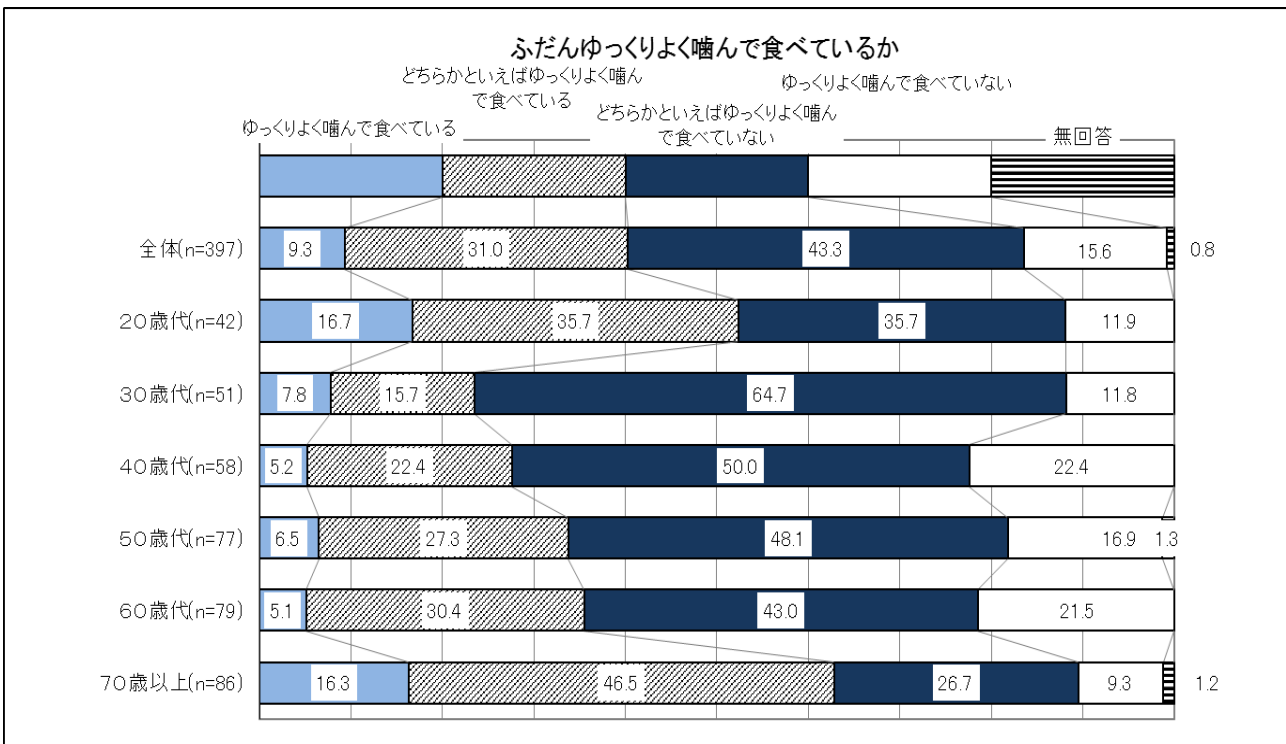
問 11 ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。 (○は1つだけ)

◆ 20歳代の半数以上が「ゆっくりよく噛んで食べている」「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」と答えている

年代別にみると、50歳代及び60歳代では7割弱、30歳代及び40歳代では7割を超える方が「ゆっくりよく噛んで食べていない」「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない」と回答しています。

性別にみると、男女とも「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない」が4割強と最も多くなっています。

II 一般市民 調査結果

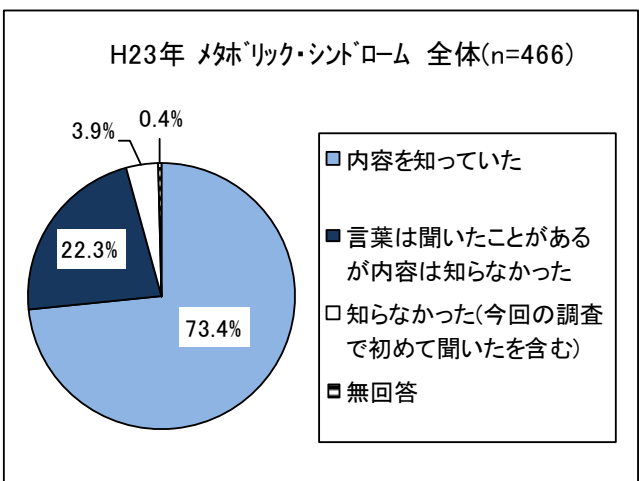
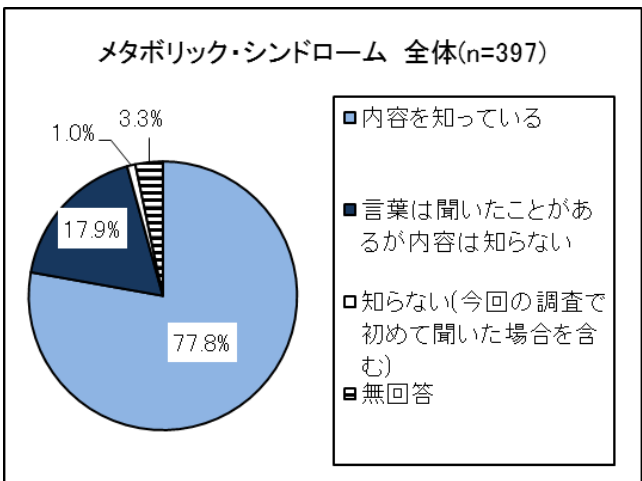


問 12 「メタボリック・シンドローム」(内臓脂肪症候群)とは何か知っていますか。(〇は1つだけ)

◆ 「メタボリック・シンドローム」を知っている人は、前回より4.4%増えている

「内容を知っている」と答えた人は77.8%で、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」と答えた人は17.9%、「知らない」と答えた人は1.0%となっています。

「内容を知っている」人は、平成23年調査より4.4%増え、徐々に関心が高まっていることがわかります。



## II 一般市民 調査結果

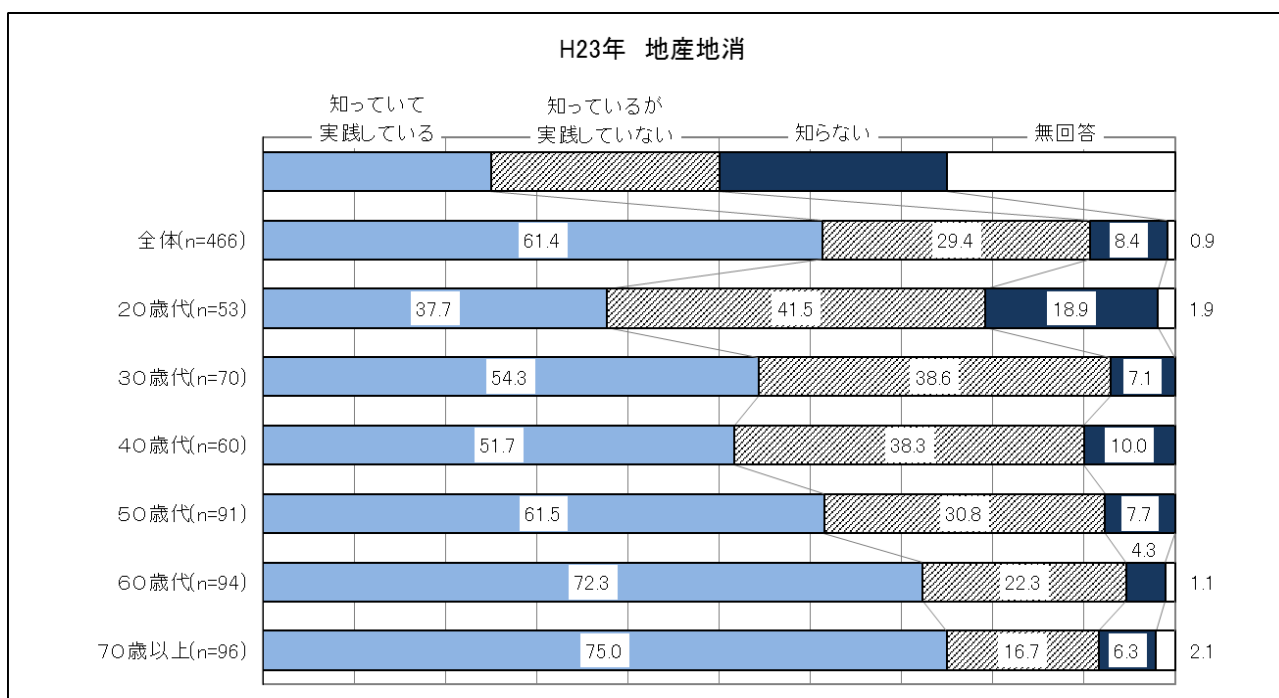
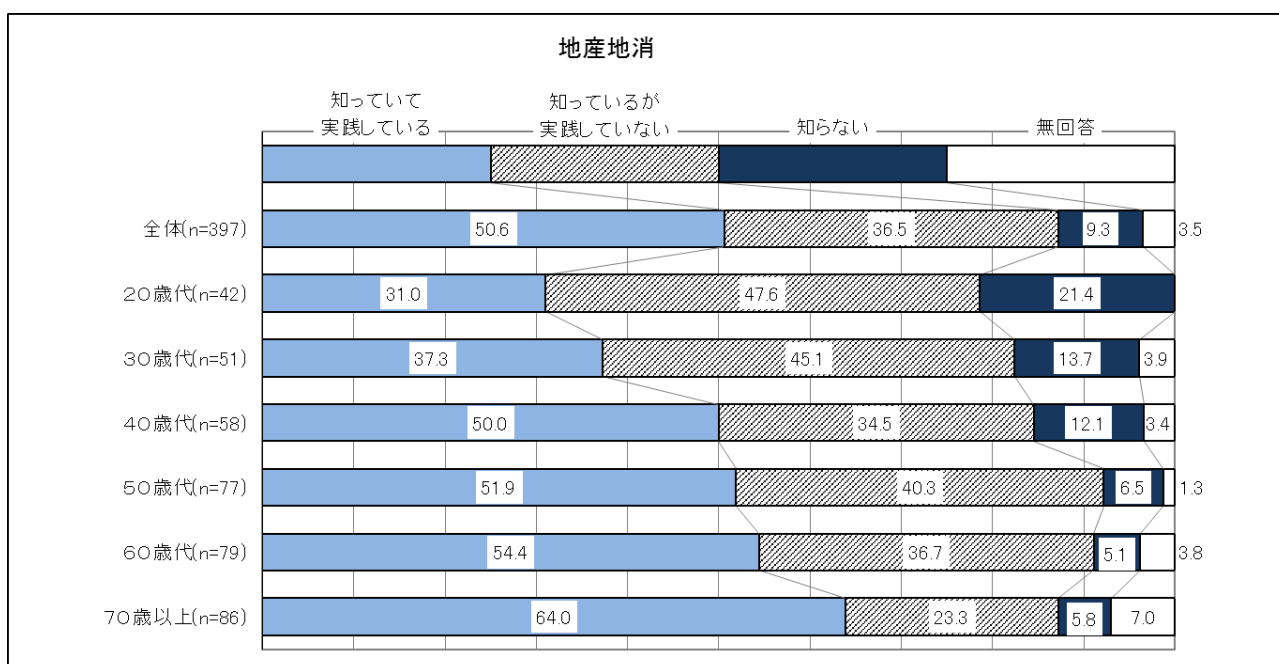
### 3. 食材等について

問 13 「地域で生産されたものをできるだけその地域で消費する」地産地消の考えを知っていますか。また、実践していますか。 (〇は1つだけ)

- ◆ 地産地消の考えは約半数の人が知っていて、実践している
- ◆ 「知っていて実践している」人は、前回調査より10.8%減っている

全体では、「知っていて、実践している」(50.6%)が最も高く、「知っているが実践していない」(36.5%)、「知らない」(9.3%)と続いています。

性別で見ると、「知っていて、実践している」は男性39.1%、女性57.5%と、女性が男性を大幅に上回っています。年代で見ると、20歳代から70歳代へ年代が進むにつれ実践する人が多くなっています。



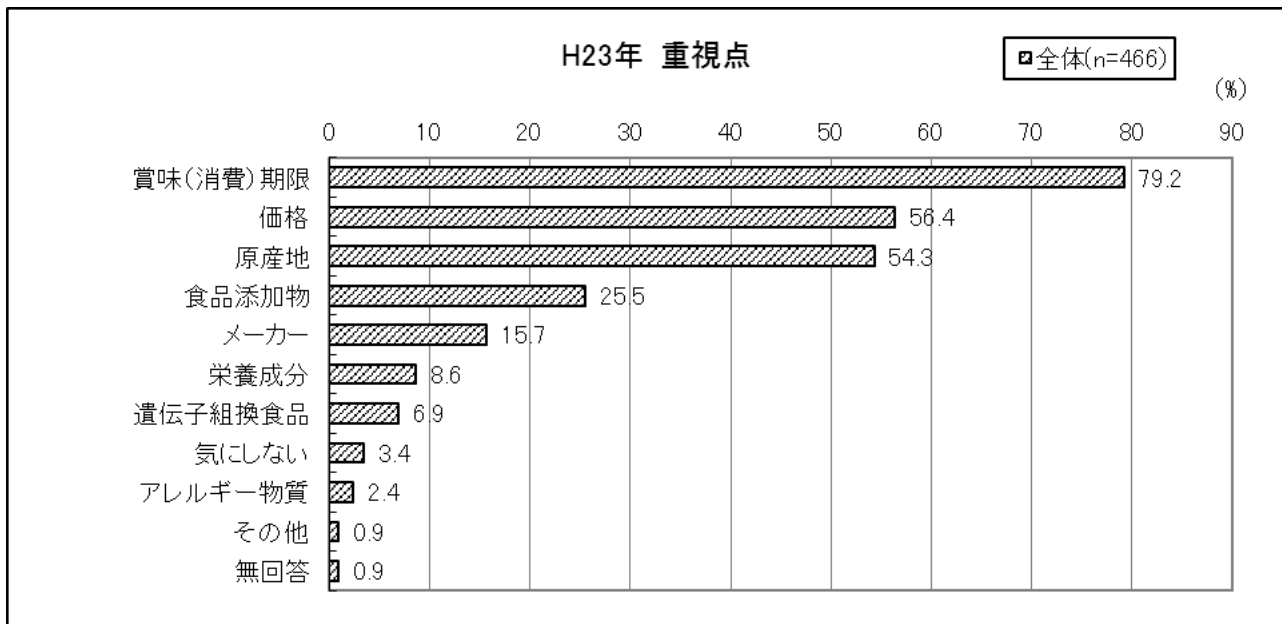
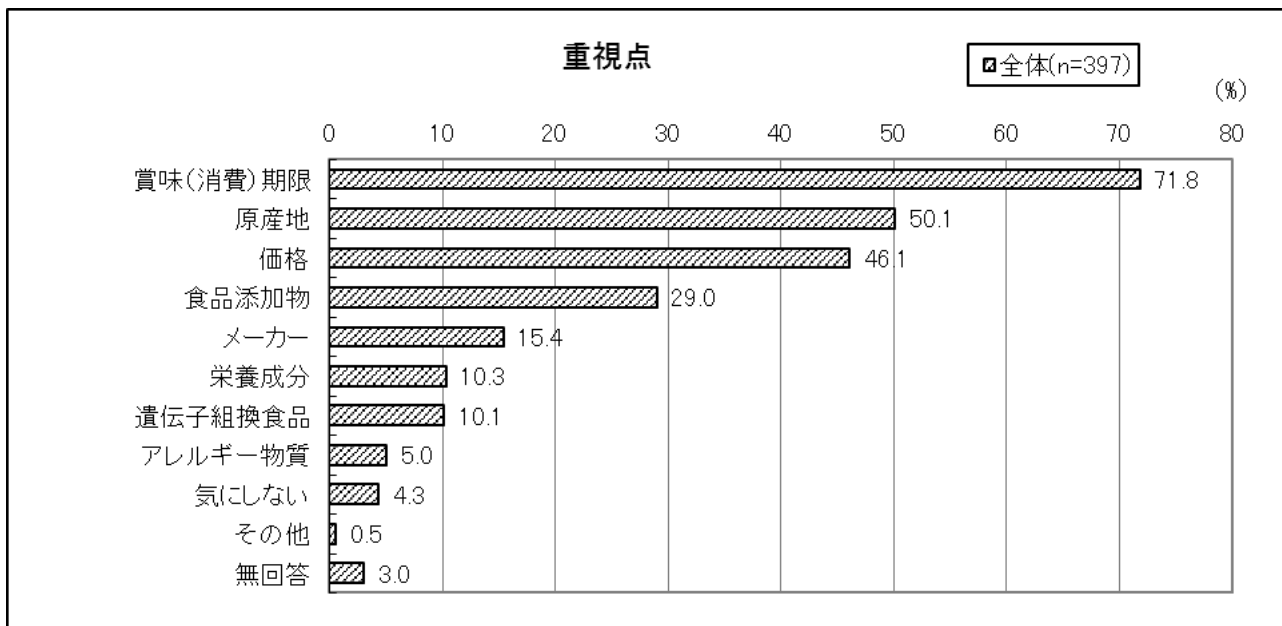
II 一般市民 調査結果

問 14 食品（加工食品等）を選ぶとき、重視する点は何ですか。（〇は3つまで）

◆ 前回と比較すると、「価格」を重視する人が10.3%減っている

全体では「賞味（消費）期限」（71.8%）が最も高く、原産地（50.1%）、価格（46.1%）、  
「食品添加物」（29.0%）と続いており、男女別・年代別でもほぼ同じ結果になっています。  
重視する上位4項目について平成23年調査と比較すると、ほぼ同様となっています。

平成23年調査と比較すると、「価格」を重視する人が減っていることから、健康志向の  
人が増えていることが予想されます。



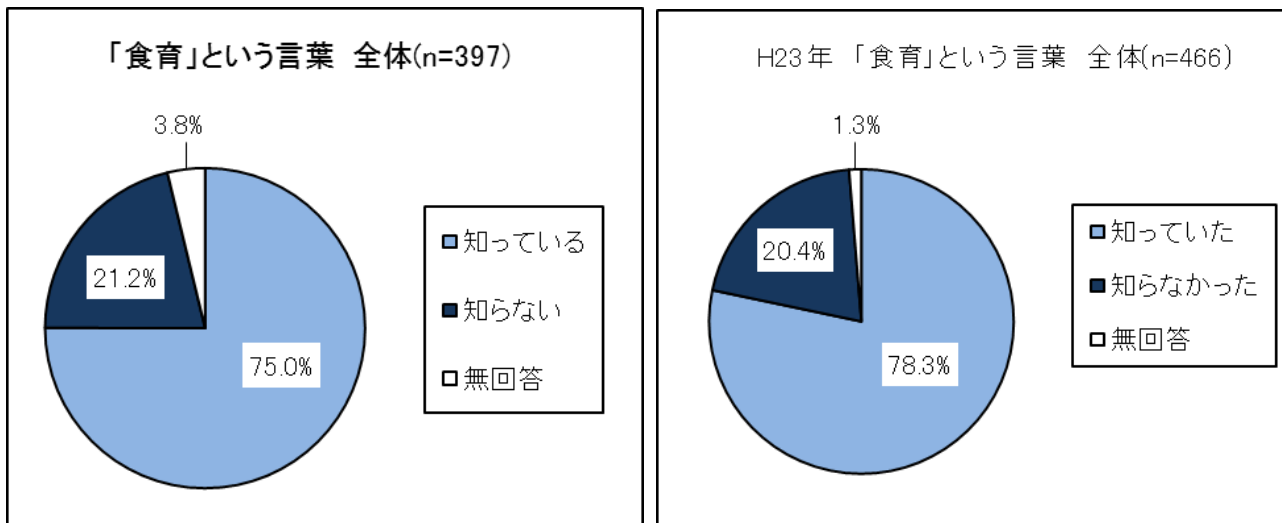
#### 4. 食育について

問 15 「食育」という言葉を知っていますか。 (○は1つだけ)

◆ 「食育」という言葉を知っている人は全体の4分の3で、前回よりも若干減っている

「知っている」は75.0%、「知らない」は21.2%となっています。

性別でみると、「知っている」人は、女性が男性を15.5%上回り、年代別では50歳代(87.0%)が最も多くなっています。

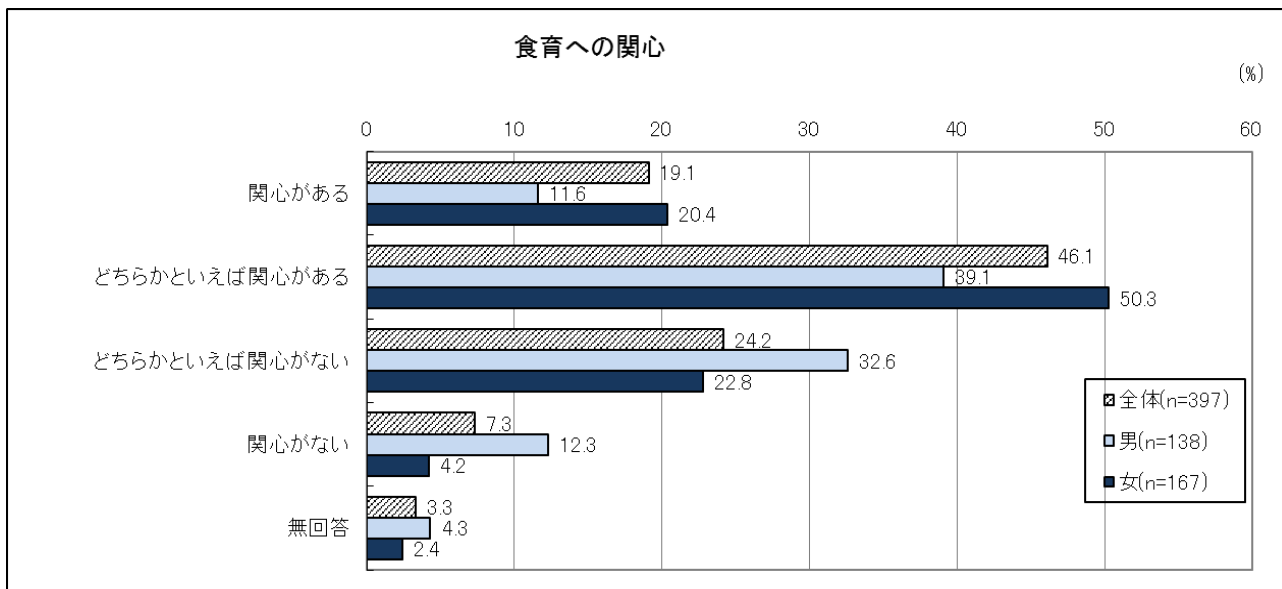


問 16 「食育」に関心がありますか。 (○は1つだけ)

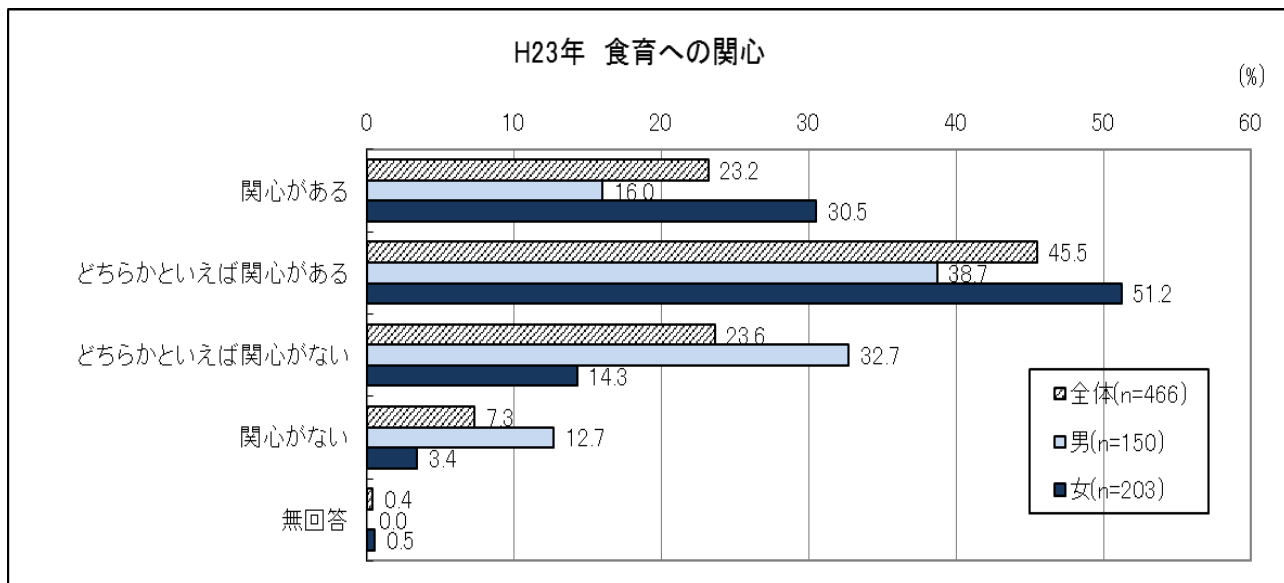
◆ 「食育」に少しでも関心がある人は65.2%で、前回より若干減っている

「食育」に関心がある人（どちらかといえば関心があるを含む）(65.2%)は、平成23年調査と比較すると、3.5%減少しています。

関心がある人（どちらかといえば関心があるを含む）を性別でみると、男性50.7%、女性70.7%で女性が男性を大幅に上回っており、関心の違いが顕著に表れています。



II 一般市民 調査結果

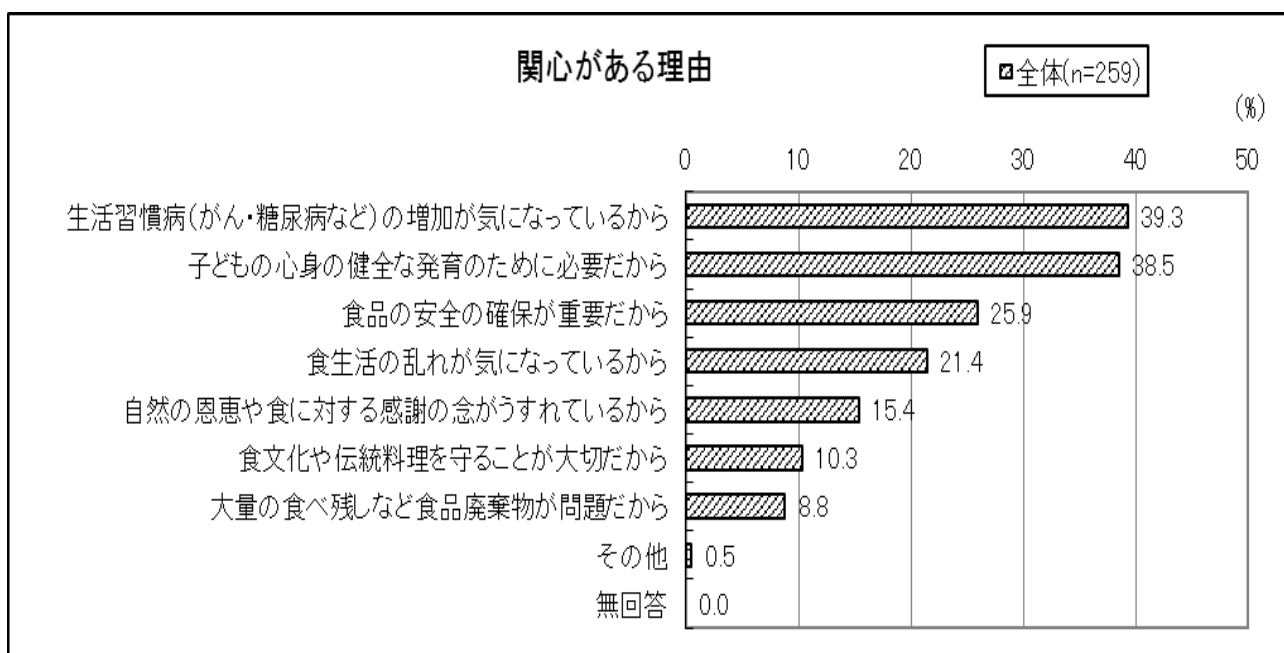


問 17 問 16 で「1. 関心がある」「2. どちらかといえば関心がある」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。(〇は3つまで)

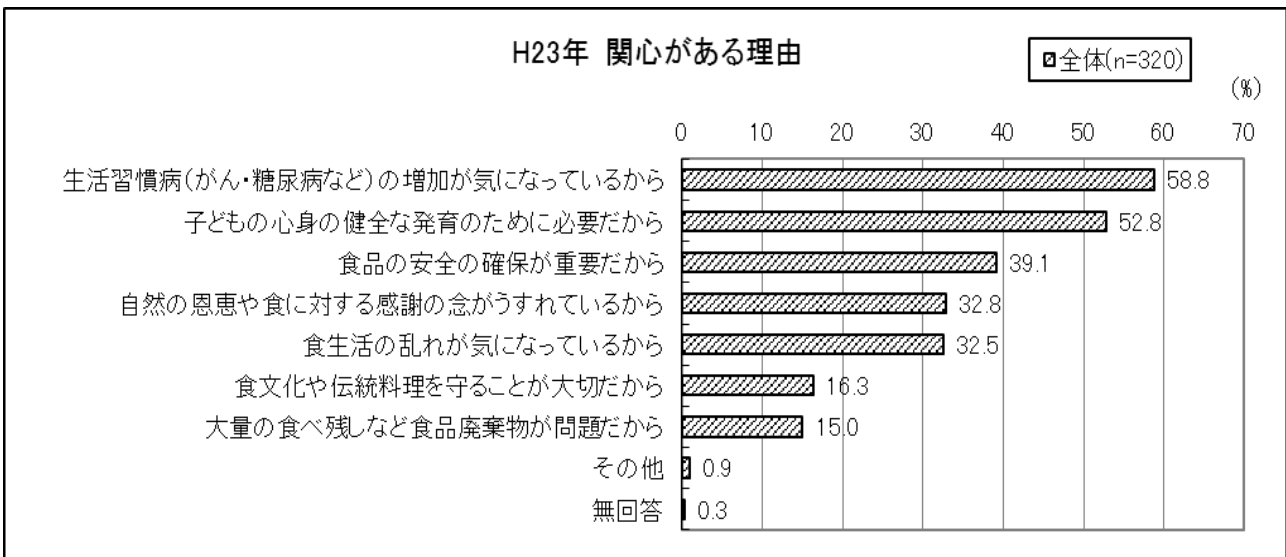
◆ 最も関心が高いのは「生活習慣病」

全体では「生活習慣病（がん・糖尿病など）の増加が気になっているから」（39.3%）が最も多く、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」（38.5%）、「食品の安全の確保が重要だから」（25.9%）、「食生活の乱れが気になっているから」（21.4%）と続いています。

平成23年調査と比較すると、上位四項目はほぼ同様となっています。



II 一般市民 調査結果



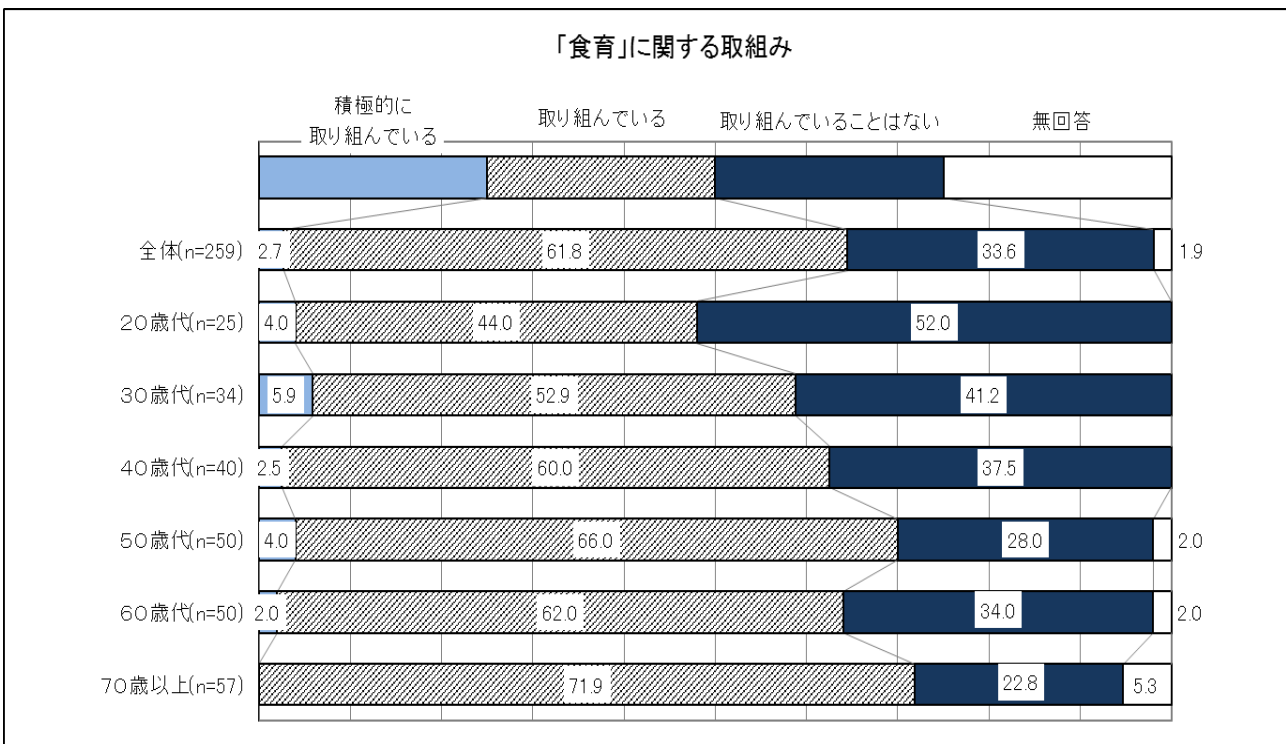
問 18 問 16 で「1. 関心がある」「2. どちらかといえば関心がある」と答えた方にお尋ねします。健全な食生活を行うために「食育」に関する取組みをしていますか。(○は1つだけ)

◆ 食育の取組みをしている人は全体の6割以上で、前回より大幅に増えている

食育の取組みをしていると答えた人は 64.5%で、平成23年調査(51.3%)より 13.2%も高くなっています。

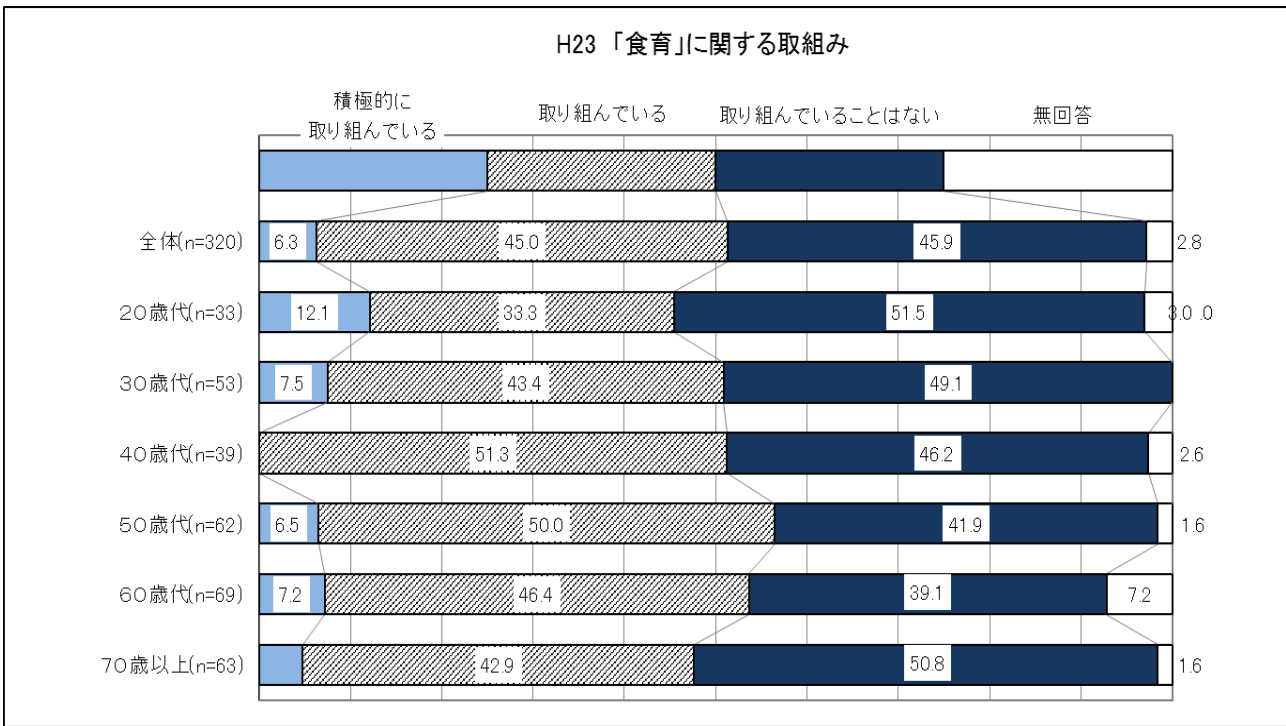
年代別では、70歳代(71.9%)が一番高くなっていますが、すべての年代において高い水準にあります。

性別でみると、男性 58.6%、女性 65.2%と、男性よりも女性の方が取り組まれています。





II 一般市民 調査結果

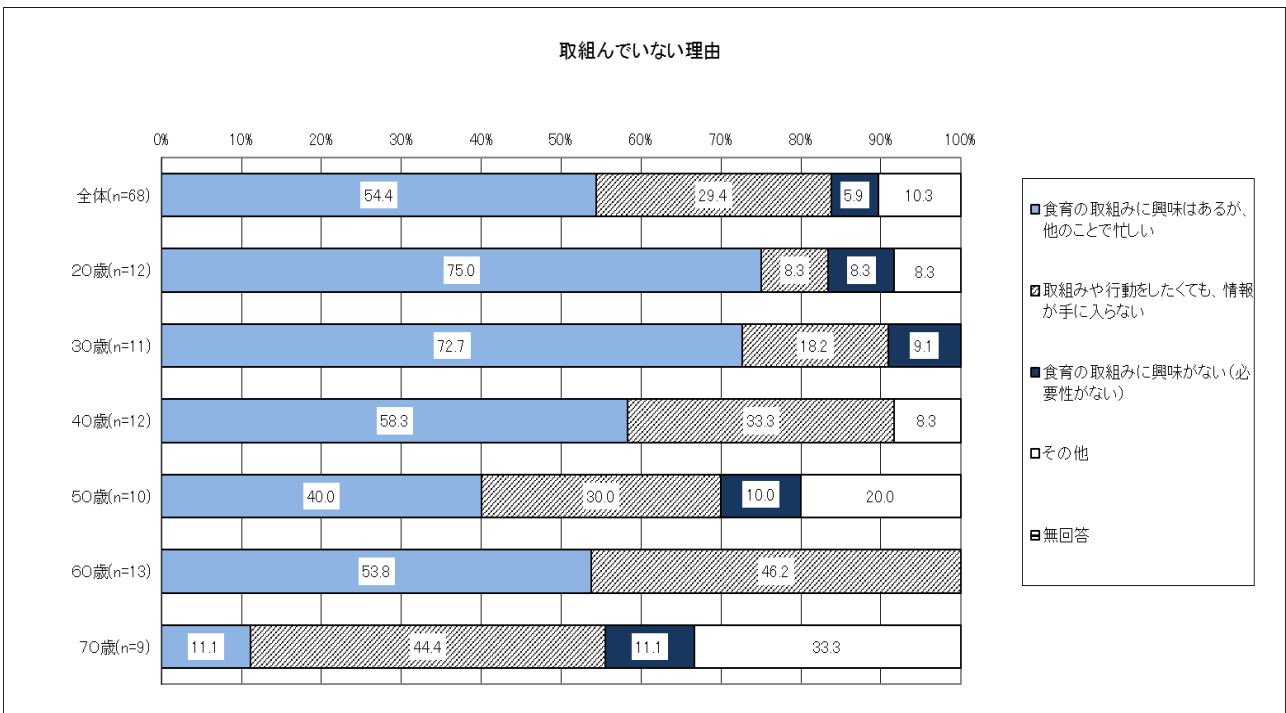


問 19 問 18 で「3. 取り組んでいることはない」と答えた方にお尋ねします。  
 取り組んでいない理由は何ですか。(○は1つだけ)

◆ 約半数の人が「食育の取組みに興味はあるが、他のことで忙しい」と答えている

主な理由は、「食育の取組みに興味はあるが、他のことで忙しい」が約半数、「取組みや行動をしたくても、情報が手に入らない」が約3割となっています。平成23年調査でもほぼ同じ結果となっています。

「食育の取組みに興味はあるが、他のことで忙しい」と答えた人は、仕事に従事する人が8割弱で、また、男性より女性が多くなっています。



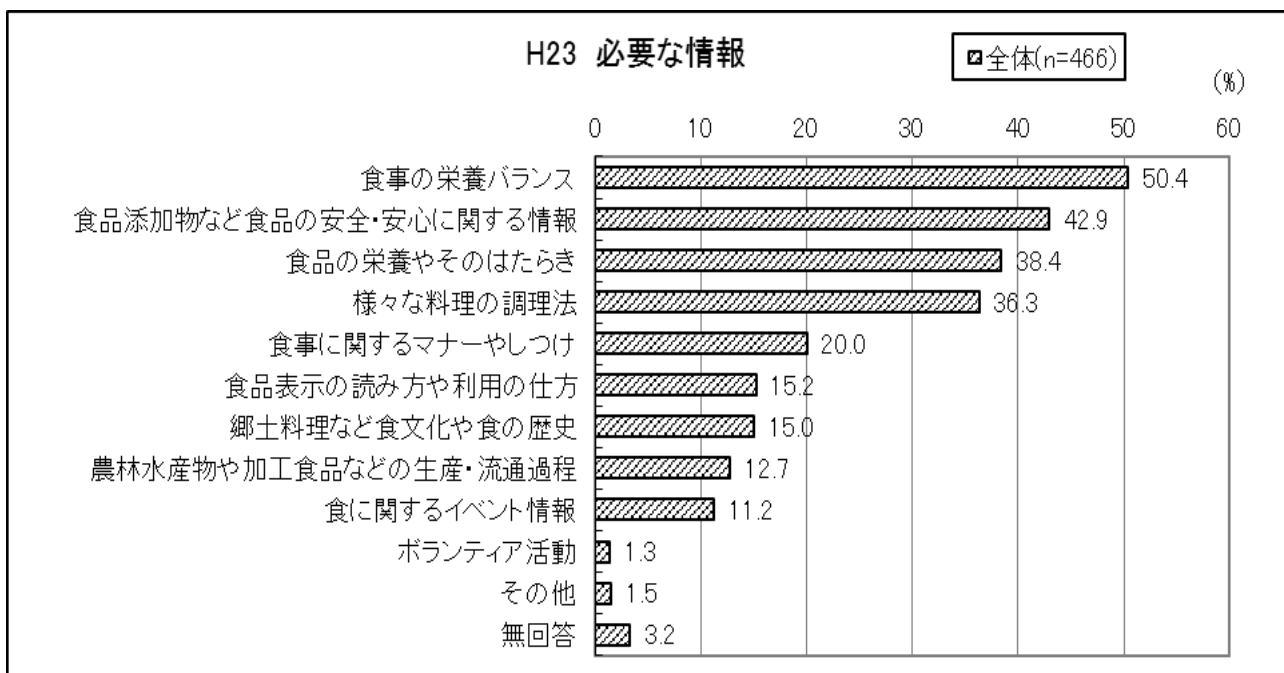
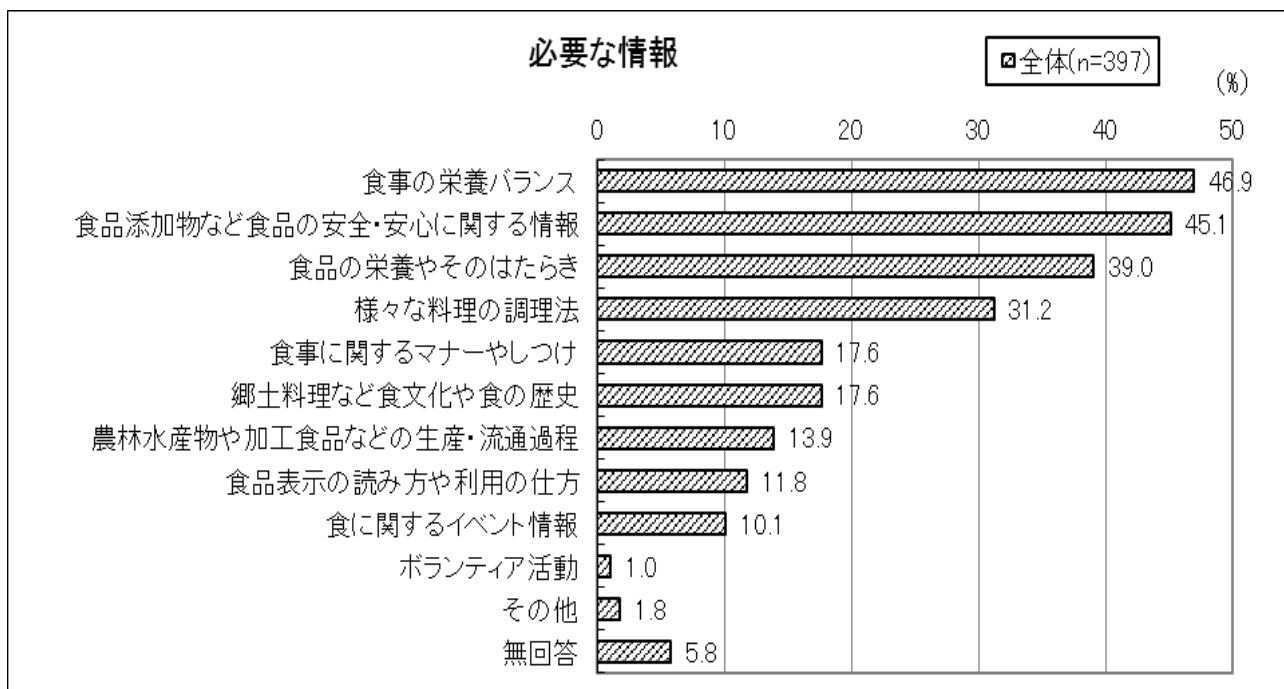
問 20 食育に関してどのような情報が必要ですか。

(○は3つまで)

◆ 最も必要とされているのは「食事の栄養バランス」に関する情報

全体では「食事の栄養バランス」(46.9%)が最も高く、「食品添加物など食品の安全・安心に関する情報」(45.1%)、「食品の栄養やそのはたらき」(39.0%)、「様々な料理の調理法」(31.2%)と続いています。

これを年代別にみると、「食事の栄養バランス」「様々な料理の調理法」「食品の栄養やはたらき」は30歳代、「食品添加物など食品の安全・安心に関する情報」は40歳代が最も高く、「食事に関するマナーやしつけ」は、子育て中と思われる20～30歳代が最も情報を必要としています。



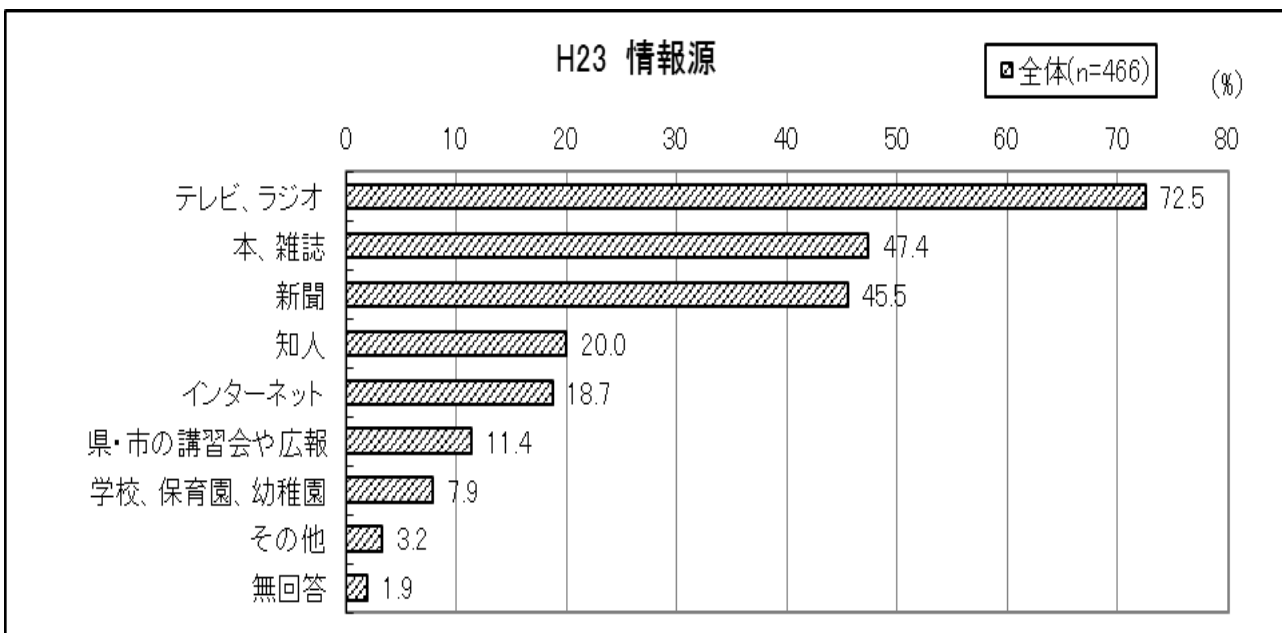
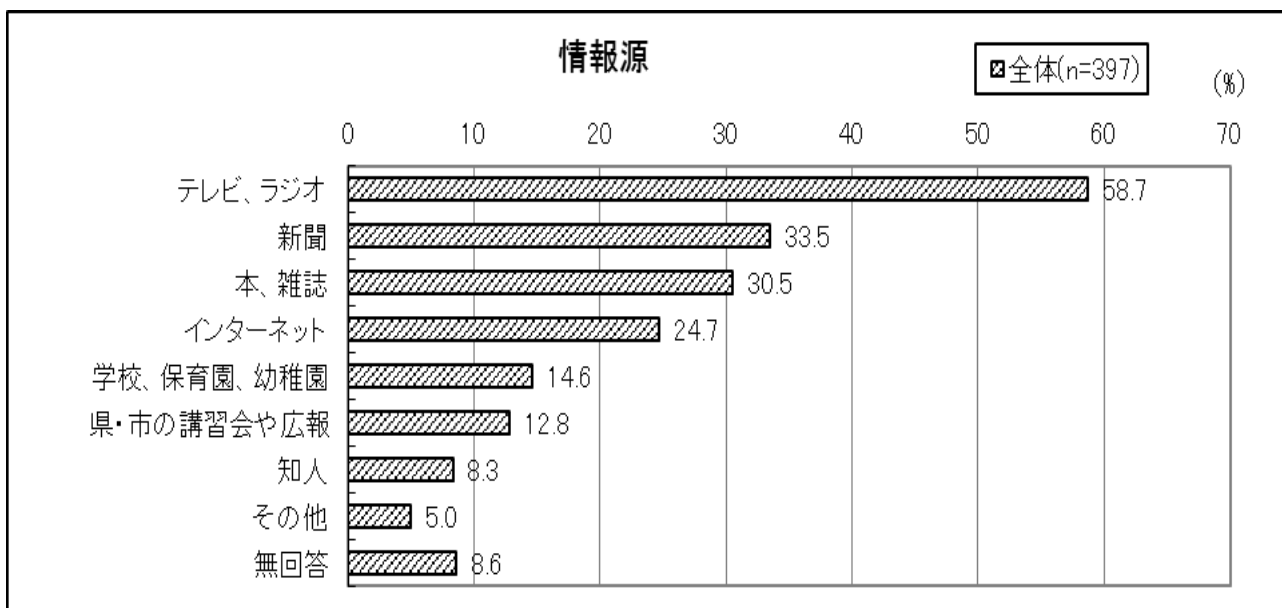
II 一般市民 調査結果

問 21 食育に関する情報は、主にどこから得ていますか。(○は3つまで)

◆ 主な情報源は、「テレビ・ラジオ」

主な情報源は、「テレビ・ラジオ」(58.7%)で、「新聞」(33.5%)、「本・雑誌」(30.5%)、「インターネット」(24.7%)と続いています。

年代別で見ると、20歳代及び30歳代は「インターネット」の利用が最も多く、40歳代以降は「ラジオ・テレビ」が最も多い結果となりました。



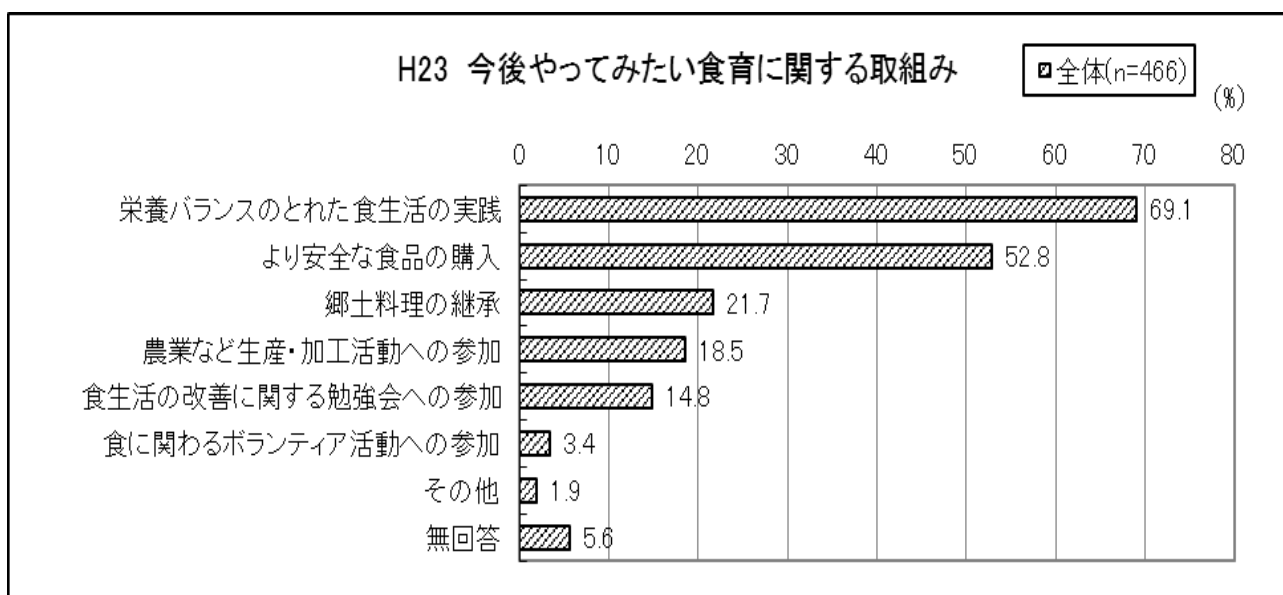
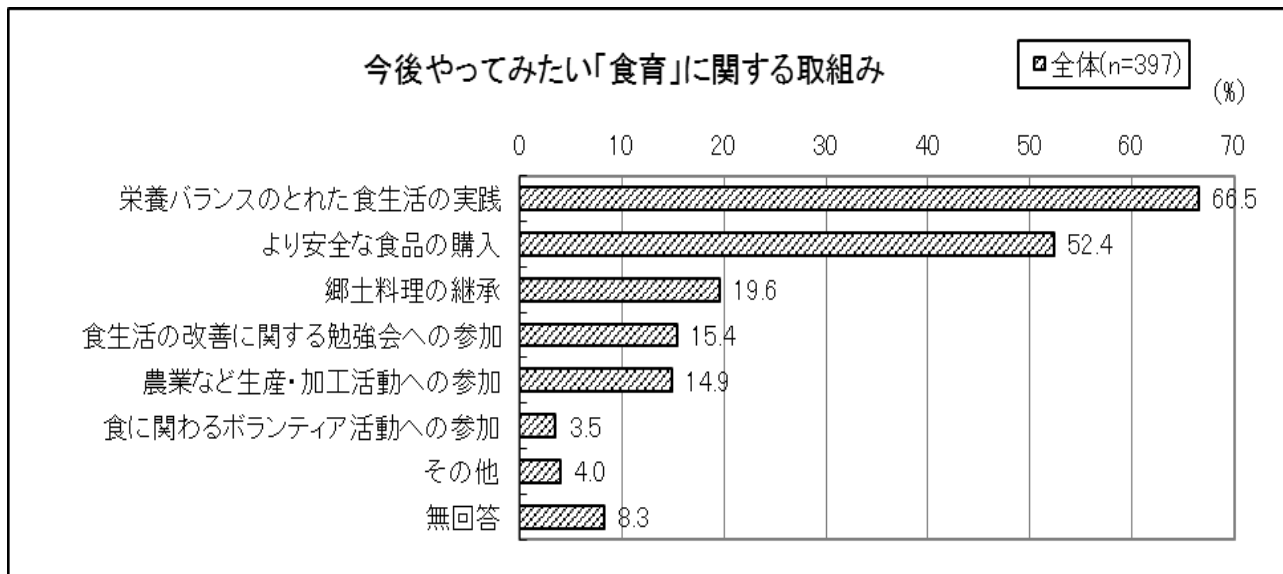
問 22 今後やってみたい「食育」に関する取組みは何ですか。(○は3つまで)

◆ 全体の7割弱の人が「栄養バランスのとれた食生活の実践」をやってみたいと考えている

## II 一般市民 調査結果

「栄養バランスのとれた食生活の実践」(66.5%)が最も高く、「より安全な食品の購入」(52.4%)、「郷土料理の継承」(19.6%)と続いています。

上位3項目は、平成23年調査でも同じ順位になっており、市民の方が実践したい食育に関する取組みは「栄養バランスのとれた食生活の実践」と「より安全な食品の購入」、「郷土料理の継承」といえます。



## 5. 食事バランスガイドについて

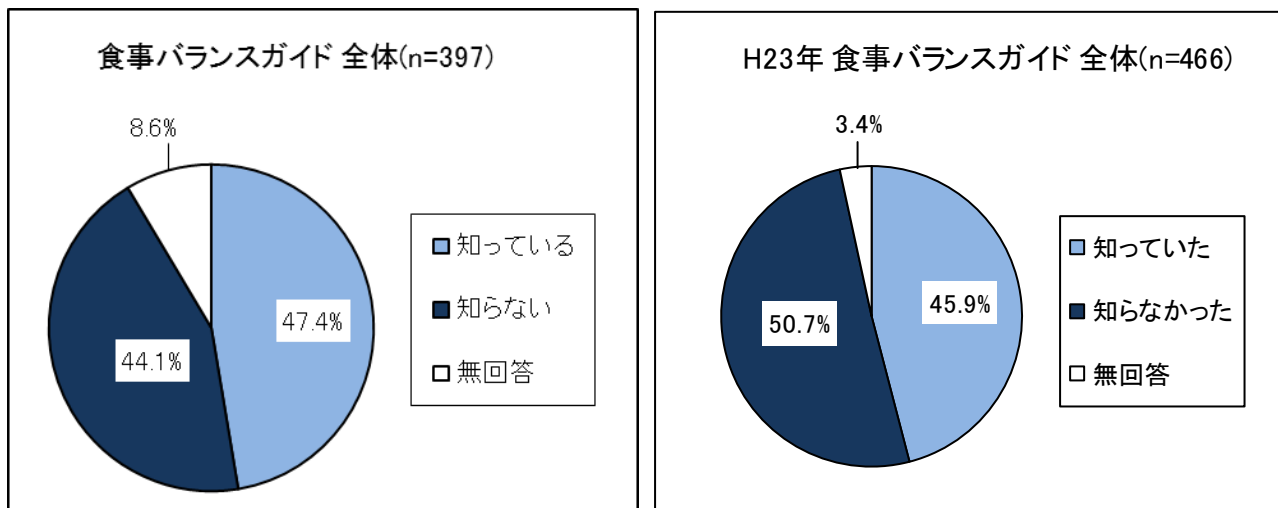
問 23 コマ型の「食事バランスガイド」を知っていますか。(○は1つだけ)

◆ 約半数が知らないことから、「食事バランスガイド」が浸透していない

「知っている」と答えた人は47.4%で、「知らない」と答えた人は44.1%です。

平成23年調査と比較すると、認知度が若干向上したものの、ほぼ同様の回答であり、啓発の取り組みが浸透していないことが伺えます。

## II 一般市民 調査結果



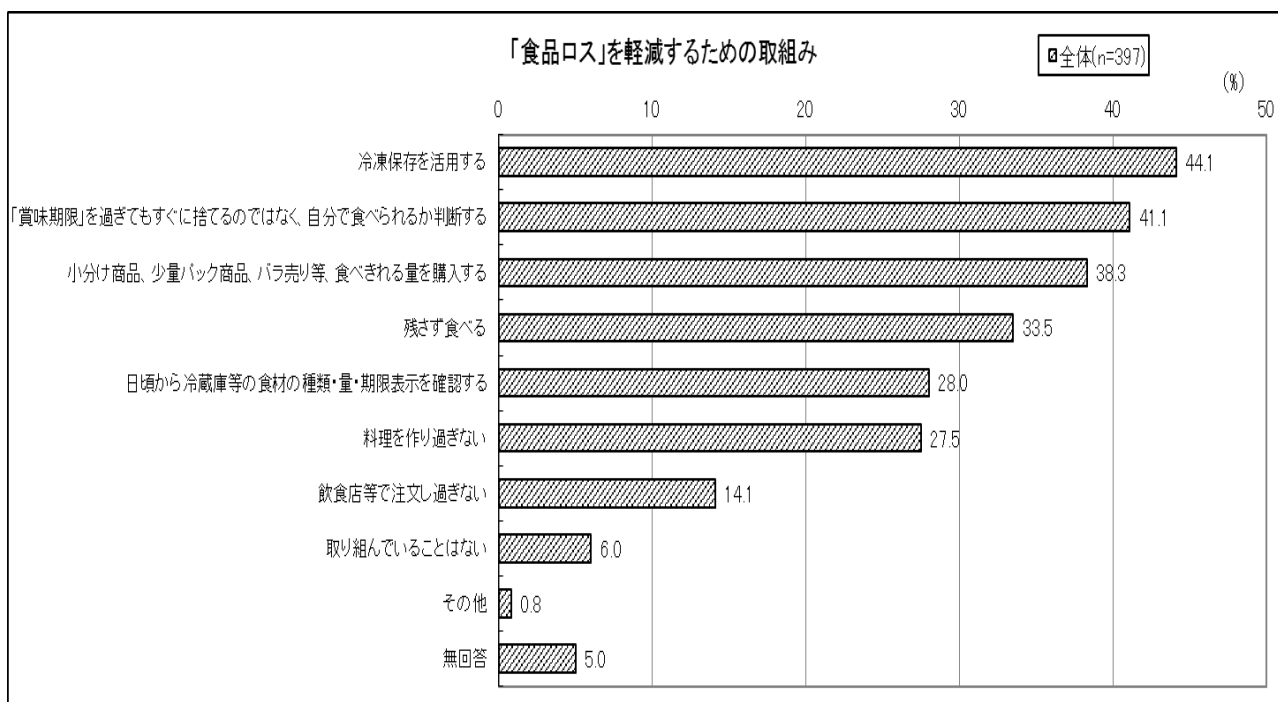
## 6. 環境について

問 24 「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。  
(〇は3つまで)

◆ 「食品ロス」を軽減するために何らかの取組みをしている人は全体の約9割で、問題意識は極めて高い

全体では「冷凍保存を活用する」(44.1%)が一番高く、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する(41.1%)、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれる量を購入する」(38.3%)、「残さず食べる」(33.5%)と続いています。

性別で見ると、「残さず食べる」「飲食店等で注文し過ぎない」は男性が女性を上回り、他の取組みは女性が高く、全体で約9割の人が「食品ロス」を軽減するために何らかの取組みを行っています。



7. 観光と交流について

問 25 伊万里の特産物の中で、知っているものはどれですか。

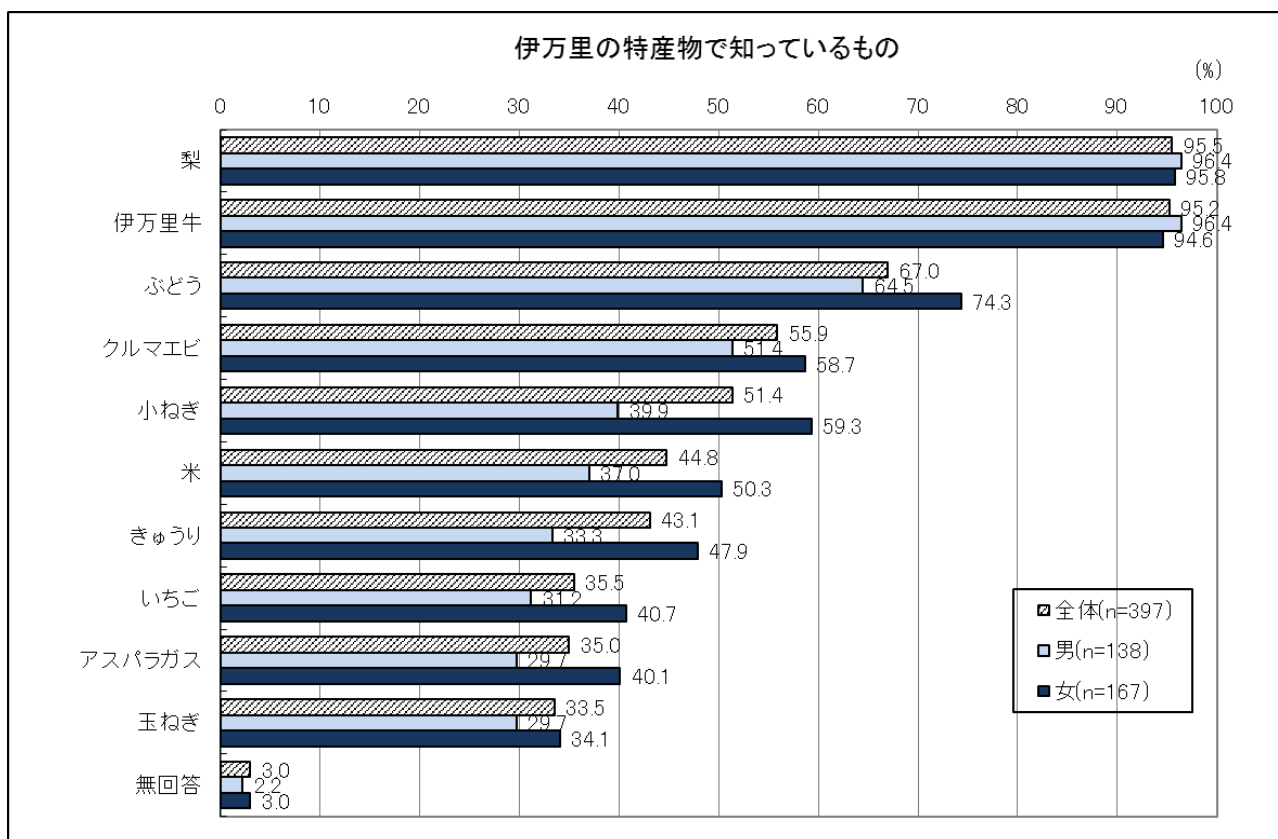
※ 平成 27 年度農畜水産物販売額の上位より抽出。

(あてはまるものすべてに○)

◆ 伊万里の特産物で知られているのは「梨」「伊万里牛」

全体では、「梨」(95.5%)と「伊万里牛」(95.2%)が伊万里の特産物としてほとんどの人に知られており、「ぶどう」(67.0%)、「クルマエビ」(55.9%)、「小ねぎ」(51.4%)と続いています。

性別で見ると、ほとんどの特産物において、男性より女性の方が知っていることから、女性の方が特産物への関心が高いといえます。



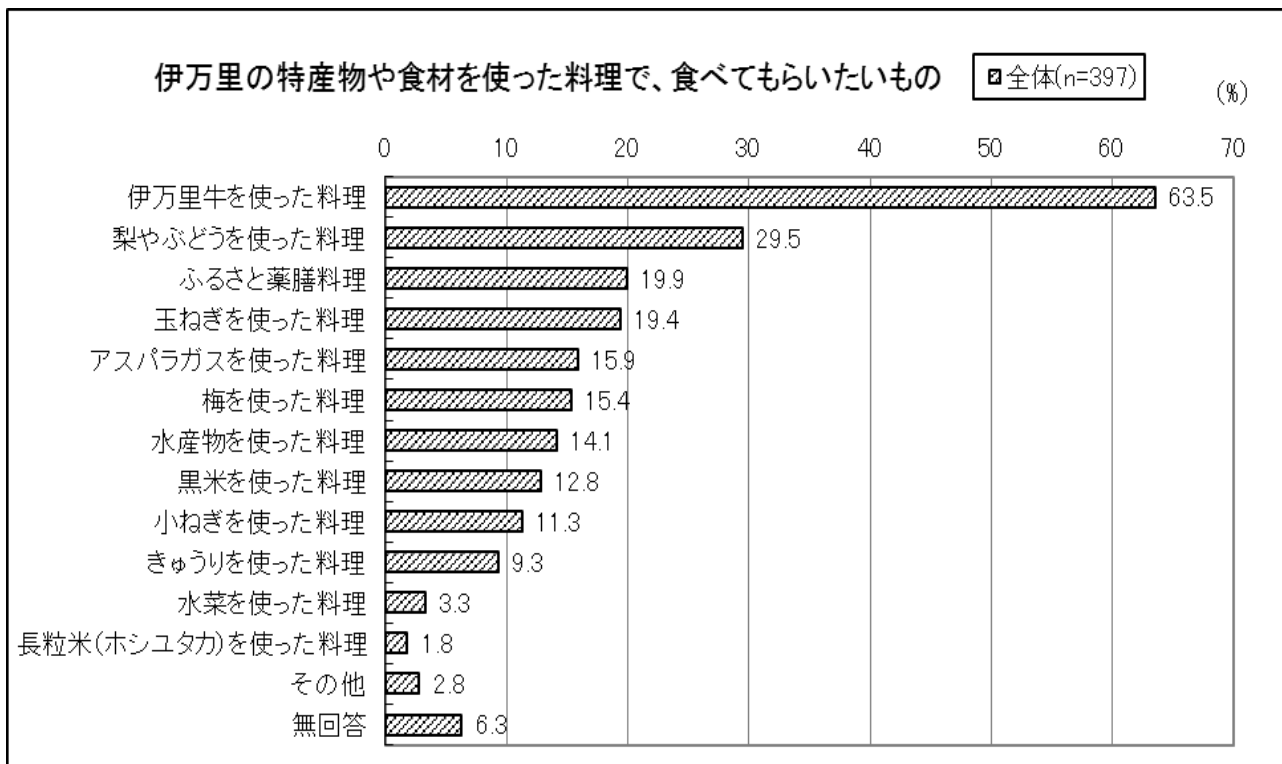
問 26 伊万里の特産物や食材を使った料理で、もっとPRしてたくさんの人に食べてもらいたいと思うものは何ですか。(○は3つまで)

◆ 「伊万里牛を使った料理」をもっとPRしてたくさんの人に食べてもらいたいと思っている人が最も多い

「伊万里牛を使った料理」(63.5%)が最も高く、「梨やぶどうを使った料理」(29.5%)、「ふるさと薬膳料理」(19.9%)、「玉ねぎを使った料理」(19.4%)と続いています。

伊万里牛・梨・ぶどう・玉ねぎ・梅等の伊万里ブランドを使った料理が上位を占めるなかで、地元の旬の食材を使った健康志向の料理も支持されています。

II 一般市民 調査結果

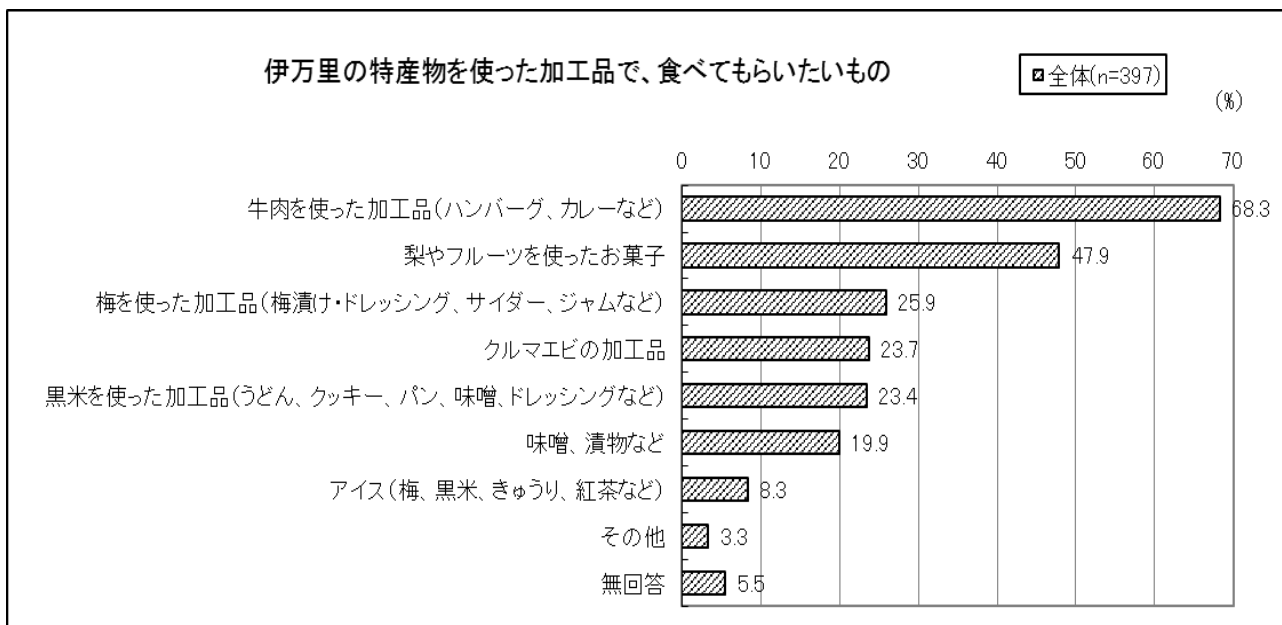


問 27 伊万里の特産物を使った加工品で、もっとPRしてたくさんの人に食べてもらいたいと思うものは何ですか。(〇は3つまで)

◆ 「牛肉を使った加工品（ハンバーグ、カレーなど）」をもっとPRしてたくさんの人に食べてもらいたいと思っている人が最も多い

「牛肉を使った加工品（ハンバーグ、カレーなど）」(68.3%)が最も高く、「梨やフルーツを使ったお菓子」(47.9%)、「梅を使った加工品（梅漬け・ドレッシング、サイダー、ジャムなど）」(25.9%)、「クルマエビの加工品」(23.7%)「黒米を使った加工品（うどん、クッキー、パン、味噌、ドレッシングなど）」(23.4%)と続いています。

加工品においても、前設問の料理と同じように、伊万里の代表的ブランドが選ばれています。



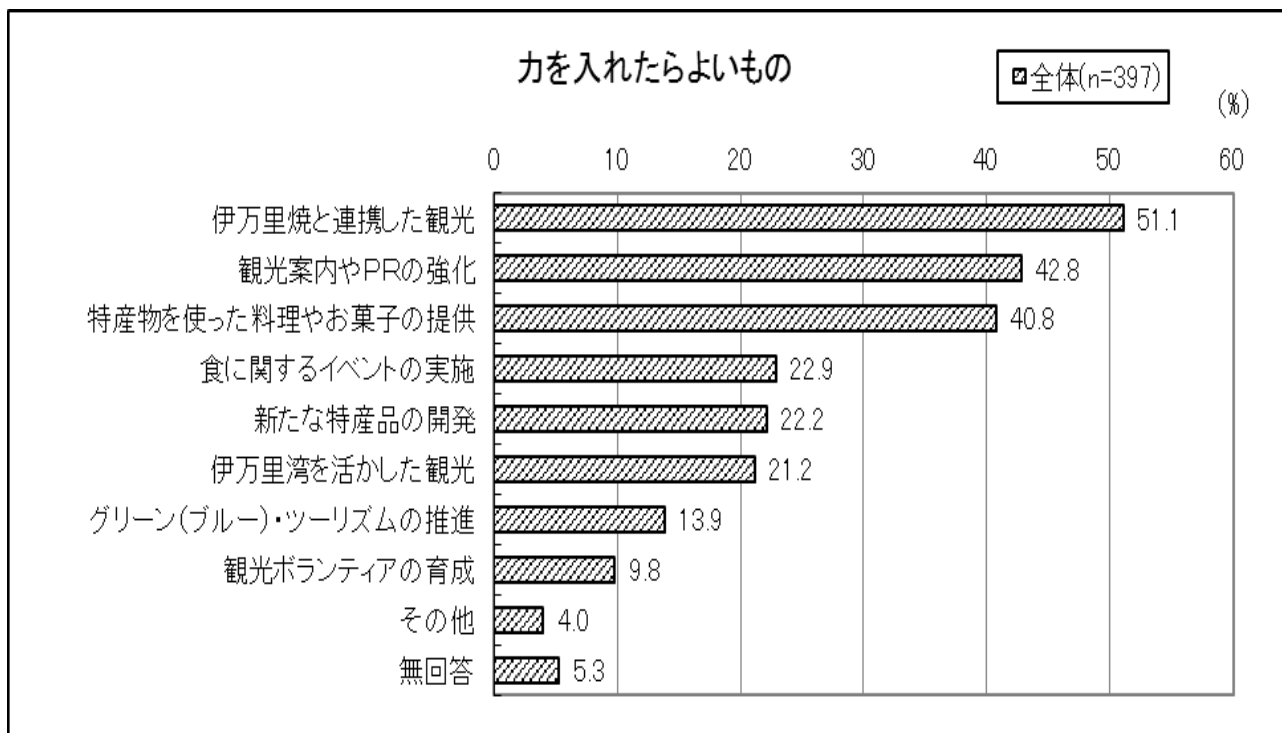
II 一般市民 調査結果

問 28 伊万里を訪れる人々が、また来てみたいと思うまちにするためには、  
何に力をいれたらいいと思いますか。 (〇は3つまで)

◆ 上位3項目は、「伊万里焼と連携した観光」「観光案内やPRの強化」「特産物を使った料理やお菓子の提供」

「伊万里焼と連携した観光」(51.1%)が最も高く、「観光案内やPRの強化」(42.8%)、「特産物を使った料理やお菓子の提供」(40.8%)と続いています。

「伊万里焼」「観光PR」「特産物を使った料理」は、観光を進めるためのキーワードと考えられているようです。



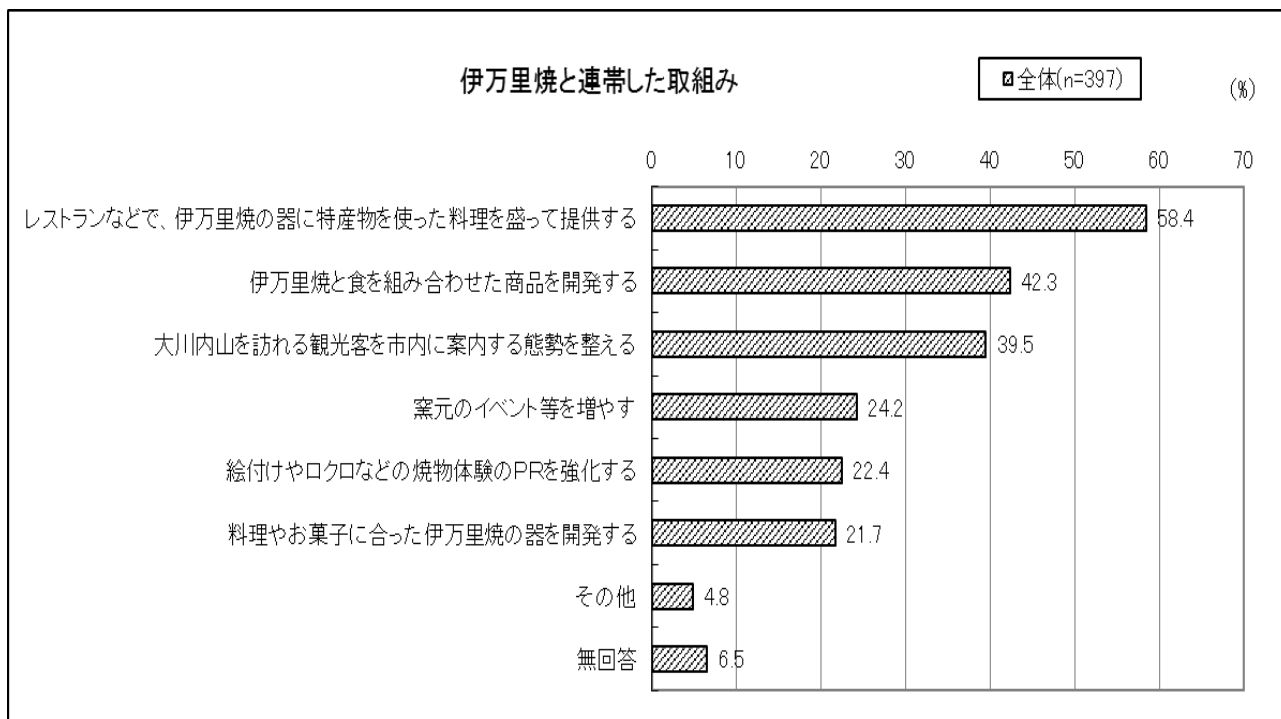
問 29 伊万里焼と連携した観光を進めるためには、どのような取組みを行えば  
いいと思いますか。 (〇は3つまで)

◆ 「レストランなどで、伊万里焼の器に特産物を使った料理を盛って提供する」取組みを行えばいいと思っている人が最も多い

「レストランなどで、伊万里焼の器に特産物を使った料理を盛って提供する」(58.4%)が最も高く、「伊万里焼と食を組み合わせた商品を開発する」(42.3%)、「大川内山を訪れる観光客を市内に案内する態勢を整える」(39.5%)「窯元のイベント等を増やす」(24.2%)と続いています。



## II 一般市民 調査結果



## 8. 伊万里のことについて

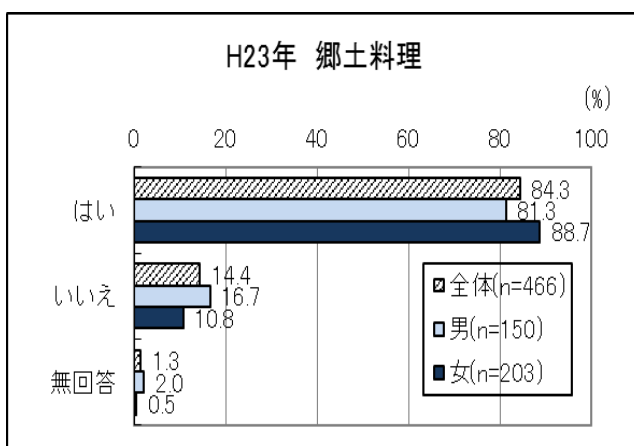
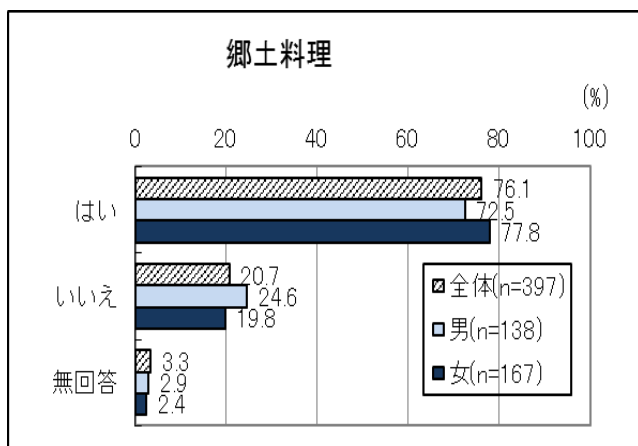
問 30 伊万里の郷土料理を食べたことがありますか。 (○は1つだけ)

◆ 郷土料理を食べたことがある人は8割弱で、前回と比較すると8.2%減っている

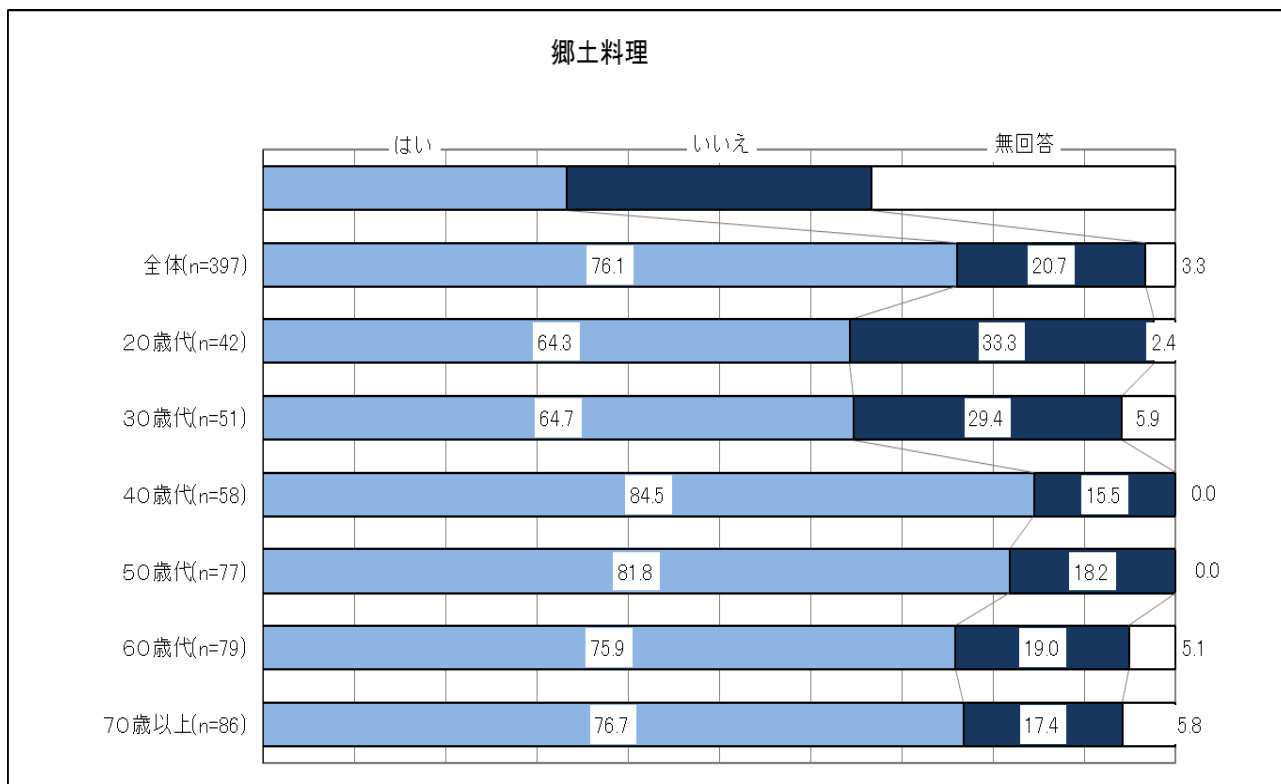
全体では、食べたことがある人は76.1%で、食べたことがない人は20.7%です。

性別でみると、食べたことがある人は男性(72.5%)よりも女性(77.8%)が多く、年代でみると、20歳代が最も少なく64.3%、40歳代が最も多く84.5%となっています。

平成23年調査と比較すると、食べたことがある人は84.3%から8.2%減少しています。



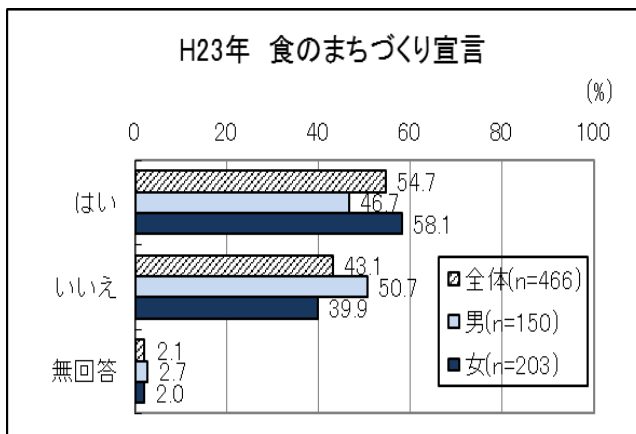
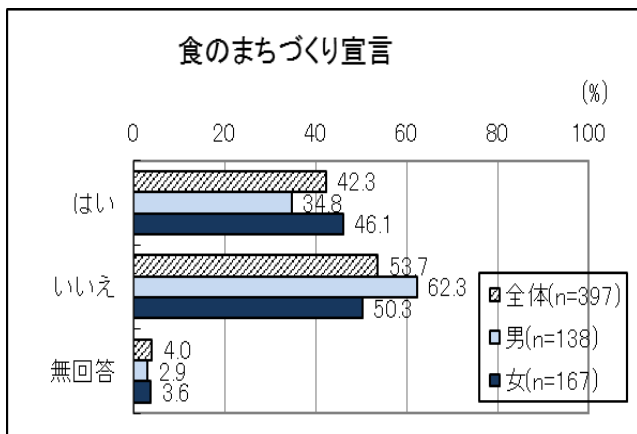
II 一般市民 調査結果



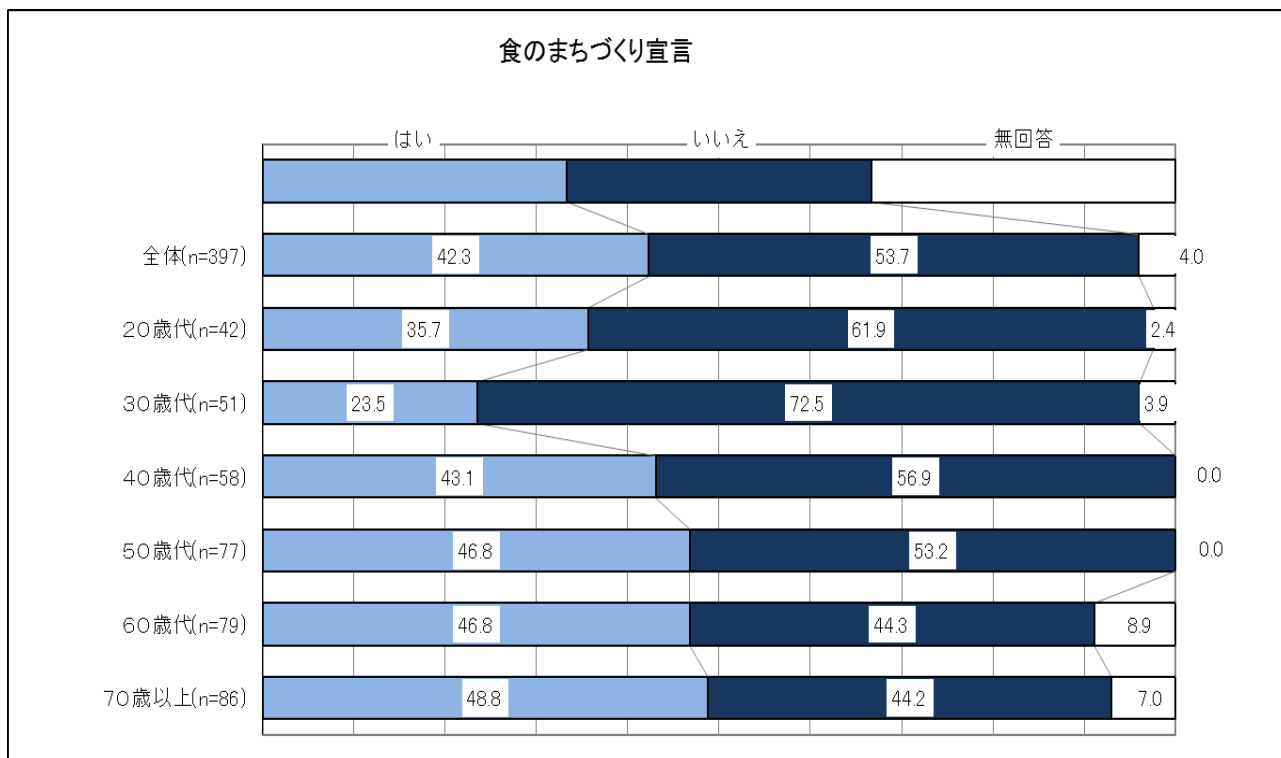
問 31 伊万里市が「食のまちづくり宣言」をしていることを知っていますか。  
(○は1つだけ)

◆ 伊万里市が「食のまちづくり宣言」をしていることを知っている人は半分を下回っており、前回より 12.4%減っている

全体では、知っている人は 42.3%で、知らない人は 53.7%です。  
性別で見ると、知っている人は男性 (34.8%) よりも女性 (46.1%) が多く、年代で見ると、30歳代が最も低く4分の1以下、最も高い年代でも70歳代の 48.8%となっています。  
平成23年調査と比較すると、知っている人は 54.7%から 12.4%減少しています。



## II 一般市民 調査結果



## 9. 市として取り組むべき方策について

問 32 市は食のまちづくりを進めるために次のことに取り組んできました。  
 今後さらに力を入れた方がよいと思うものは何ですか。 (〇は3つまで)

◆ キーワードは、「地元農産物の使用促進」「観光」「生涯食育」

全体では、「幼稚園・保育園や学校給食における市内農産物の使用促進」(32.5%)が最も高く、「伊万里焼と食を組み合わせた観光の推進」(30.7%)、「幼児から高齢者まで生涯にわたる食育の推進」(27.0%)と続いています。

上位4項目を性別で見ると、女性は全体と同じ順番ですが、男性は「伊万里焼と食を組み合わせた観光の推進」が最も高くなっています。

「食のまちづくり」を進めるためのキーワードは、「地元農産物の使用促進」「観光」「生涯食育」といえるようです。

II 一般市民 調査結果

